

独立行政法人国立美術館の平成18年度に係る業務の実績に関する評価

全体評価

評価結果の総括

- (イ) 第1期中期目標期間の評価及び文部科学省が示した事務・事業等の見直し案をふまえ、美術表現の多様化が著しい現代において我が国の美術振興の中核拠点として、国民に対して提供すべきサービスの改善が行われており、積極的に来館者のニーズに応えようとする意欲が認められる。
- (ロ) 常設展を重視する方向性が現れ、積極的に展示替えが行われていることなどは評価できるが、今後はさらに法人のスケールメリットを活かし、各館が特徴を出しながら連携協力を推進することを期待する。

<参考>

- 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置 A
業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置 A
財務、人事、施設整備に関する目標を達成するためにとるべき措置 A

評価結果を通じて得られた法人の今後の課題

- (イ) 美術振興に関するナショナルセンターとして、法人全体を貫く方向性と、各館の役割分担を明確にすることが、今後の重要な課題である。その上で、各美術館が国の文化の拠点として、それぞれの特徴を活かしながら運営するとともに、法人全体としてバランスのとれたトップマネジメントを行うことが重要である。(項目別 - 3、9、12、27参照)
- (ロ) 先進諸国のナショナルコレクションと比較して、我が国の国立美術館の収蔵品(映画を含む)は、未だ質量ともに不十分であり、また収蔵庫の狭隘化という喫緊の問題も抱えている。(項目別 - 20、22参照)
- (ハ) 組織的には少ない人員でそれぞれが努力をしているが、業務量等も考慮し、法人全体で組織のあり方を検討する必要があると考える。(項目別 - 51参照)

評価結果を踏まえ今後の法人が進むべき方向性

- (イ) 例えば、教育普及に関する事業や、国際交流を行う上での日本文化の特性をどのようにアピールすべきかについては、法人全体で取り組むべき課題と考えられる。常設展についても、法人全体のコレクションを視野に入れつつ、それぞれの館が特徴を出しながら、総体として系統づけられた展示を行うことが期待される。(項目別 - 3、9、12、27参照)
- (ロ) 厳しい予算の中で、十分な作品購入予算を確保することは困難と考えるが、法人のスケールメリットを活かしつつ連携をさらに強化し、寄贈や委託も含め、中長期的観点からコレクションの充実に努めるよう期待する。(項目別 - 20、22参照)
- (ハ) 法人のトップマネジメントを發揮し、本部機能の充実と全体としてバランスのとれた組織改革を期待する。(項目別 - 51参照)

特記事項

今後、関係法令の改正等の可能性も考えられることから、これらの動向にも十分注意を傾けることが望まれる。

文部科学省独立行政法人評価委員会 文化分科会国立美術館部会委員名簿

< 正委員 >

池田 弘一 アサヒビール株式会社代表取締役会長兼CEO

竹内 順一 東京藝術大学美術学部教授

< 臨時委員 >

安藤 紘平 映画監督、早稲田大学教授

島田 紀夫 ブリヂストン美術館館長

田中 通孝 武蔵野音楽大学音楽環境運営学科教授

前田 富士男 慶應義塾大学アート・センター所長

(以上6名、 :部会長)

独立行政法人国立美術館の平成18年度に係る業務の実績に関する評価

項目別評価総表

項目名	中期目標期間中の評価の経年変化					項目名	中期目標期間中の評価の経年変化				
	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度		18年度	19年度	20年度	21年度	22年度
(大項目名)国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置	A					(小項目名)ナショナルセンターとしての人材育成	B				
(中項目名)美術振興の中核的拠点としての多彩な活動の展開	A					(小項目名)フィルムセンターの取組状況	A				
(小項目名)展覧会への取組(常設展)	A					(大項目名)業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置	A				
(小項目名)展覧会への取組(企画展)	A					(中項目名)業務の効率化の状況	A				
(小項目名)国立新美術館の取組	B					(大項目名)財務、人事、施設整備に関する目標を達成するためにとるべき措置	A				
(小項目名)情報の発信	A					(中項目名)財務の状況	A				
(小項目名)教育普及活動の実施状況	A					(中項目名)短期借入金の限度額	A				
(小項目名)調査研究の実施状況	B					(中項目名)重要な財産の処分等に関する計画	A				
(小項目名)観覧環境の提供	B					(中項目名)剰余金の使途	A				
(小項目名)国立新美術館の開館	B					(中項目名)人事の状況	A				
(中項目名)我が国の近現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示しうるナショナルコレクションの形成 継承	A					(中項目名)施設整備の状況	A				
(小項目名)収蔵品の収集	A					(中項目名)関連公益法人	A				
(小項目名)収蔵品の保管・管理	B										
(小項目名)収蔵品の修理	A										
(小項目名)収集・保管のための調査研究	A										
(中項目名)我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与	B										
(小項目名)ナショナルセンターとしての国内外の美術館等との連携・協力	B										

当該中期目標期間の初年度から経年変化を記載。

総表

【参考資料1】予算、収支計画及び資金計画に対する実績の経年比較

(単位:百万円)

区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
収入						支出					
運営費交付金	4,276	4,622	5,158	4,984	6,779	運営事業費	4,591	5,060	5,669	6,011	7,274
展示事業収入	457	356	528	733	744	人件費	1,065	1,103	1,187	1,197	1,181
受託収入	0	4	6	38	42	管理部門 1	-	-	-	-	420
寄附金収入	10	199	15	6	29	事業部門 1	-	-	-	-	761
消費税等還付税額	52	0	0	0	0	業務経費	3,526	3,957	4,482	4,814	6,093
						一般管理費	941	994	1,200	979	816
						展覧事業費	1,941	2,239	2,583	2,981	2,183
						調査研究事業費	316	284	208	209	201
						教育普及事業費	322	386	398	410	489
						国立新美術館 2	6	54	93	235	2,404
計	4,795	5,181	5,707	5,761	7,594	計	4,591	5,060	5,669	6,011	7,274

1 平成18年度より管理部門と事業部門を分けて記載

2 国立新美術館設立等準備事業費(平成18年度は国立新美術館開館準備等事業費等)

(単位:百万円)

区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
費用						収益					
経常費用	3,501	3,652	3,960	4,105	5,885	運営費交付金収益	3,068	3,347	3,537	3,605	5,231
収集保管事業費	238	310	345	359	316	資産見返運営費交付金戻入	14	24	51	86	109
展覧事業費	1,098	1,054	1,129	1,131	1,468	資産見返物品受贈額戻入	117	68	50	38	21
調査研究事業費	340	249	236	313	444	入場料収入	426	297	461	646	601
教育普及事業費	424	450	496	525	714	その他事業収入	30	58	65	86	139
新館設置対応費	0	117	60	128	554	受託収入	0	4	6	38	42
受託事業費	0	4	6	36	41	寄附金収益	10	6	15	5	16
一般管理費	1,268	1,380	1,590	1,488	2,217	雑益	1	0	1	1	4
減価償却費	133	88	98	125	131	臨時利益	85	0	0	0	1
臨時損失	33	42	10	0	1						
計	3,534	3,694	3,970	4,105	5,886	計	3,751	3,804	4,186	4,505	6,164
						純利益	217	110	216	400	278
						目的積立金取崩額	0	0	0	43	0
						総利益	217	110	216	443	278

(単位:百万円)

区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
資金支出						資金収入					
業務活動による支出	4,533	4,543	5,300	5,174	7,315	業務活動による収入	5,979	5,179	5,692	5,761	7,557
投資活動による支出	86	242	332	237	430	運営費交付金収入	4,276	4,622	5,158	4,984	6,779
国庫納付金の支払額	0	0	0	0	1,499	入場料収入	426	297	458	648	605
翌年度への繰越金	2,292	2,686	2,746	3,096	1,409	その他事業収入	1,267	57	63	90	136
						寄附金収入	10	199	13	6	27
						受託収入	0	4	0	33	10
						前年度よりの繰越金	932	2,292	2,686	2,746	3,096
計	6,911	7,471	8,378	8,507	10,653	計	6,911	7,471	8,378	8,507	10,653

参考資料2]貸借対照表の経年比較

(単位:百万円)

区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度	区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
資産						負債					
流動資産	2,298	2,693	2,770	3,124	1,487	流動負債	769	1,056	1,025	1,619	1,202
固定資産	71,700	72,504	85,449	86,292	121,326	固定負債	542	635	890	924	1,265
						負債合計	1,311	1,691	1,915	2,543	2,467
						資本					
						資本金	33,649	33,649	45,949	45,949	81,019
						資本剰余金	37,504	38,213	38,608	39,044	38,668
						利益剰余金	1,534	1,644	1,747	1,880	659
						(うち当期未処分利益)	(217)	(110)	(216)	(443)	(278)
						資本合計	72,687	73,506	86,304	86,873	120,346
資産合計	73,998	75,197	88,219	89,416	122,813	負債・資本合計	73,998	75,197	88,219	89,416	122,813

参考資料3]利益(又は損失)の処分についての経年比較 (単位:百万円)

区分	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
当期末処分利益	217	110	216	443	278
当期総利益	217	110	216	443	278
利益処分額	217	110	216	443	277
積立金	63	39	122	443	23
独立行政法人通則法第44条第3項により主務大臣の承認を受けた額	154	71	94	0	254
美術作品購入・修理積立金	92	69	94	0	255
設備積立金	62	2	0	0	0

18年度は承認を受けようとする額

【参考資料4】人員の増減の経年比較（過去5年分を記載）（単位：人）

職種	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
定年制研究系職員	53	58	60	60	61
定年制事務系職員	63	64	68	70	70

独立行政法人国立美術館の平成18年度に係る業務の実績に関する評価

段階的評定の区分及び定量的な評価を行う際の各段階別評定の達成度の目安については、次の考え方とする。

- S : 特に優れた実績を上げている。(客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す。)
- A : 中期計画通り、または中期計画を上回って履行し、中期目標に向かって順調、または中期目標を上回るペースで実績を上げている。(当該年度に実施すべき中期計画の達成度が100%以上)
- B : 中期計画通りに履行しているとは言えない面もあるが、工夫や努力によって、中期目標を達成し得ると判断される。(当該年度に実施すべき中期計画の達成度が70%以上100%未満)
- C : 中期計画の履行が遅れており、中期目標達成のためには業務の改善が必要である。(当該年度に実施すべき中期計画の達成度が70%未満)
- F : 評価委員会として業務運営の改善その他の勧告を行う必要がある。(客観的基準は事前に設けず、業務改善の勧告が必要と判断された場合に限りFの評定を付す。)

国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためにとるべき措置

評価 A

中期計画通り、または中期計画を上回って履行し、中期目標に向かって進展、または中期目標を上回るペースで実績を上げている。

中項目の評価	評価
1. 美術振興の中核的拠点としての多彩な活動の展開	A
2. 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示しうるナショナルコレクションの形成・継承	A
3. 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与	A

【中項目評価】

1. 美術振興の中核的拠点としての多彩な活動の展開

評価 A

中期計画通り、または中期計画を上回って履行し、中期目標に向かって進展、または中期目標を上回るペースで実績を上げている。

評価のポイント

常設展については、法人全体として所蔵品の活用をより積極的に図ることが望まれる。
 企画展については、中期計画にうたわれているように、メディアアート、アニメ、建築など我が国が世界から注目される領域を紹介することを意識した先導的な取組を特に期待する。
 また、ナショナルセンターとして、国際的な課題を認識することが望まれる。教育普及の分野においては、公私立美術館との共通性・差異を認識しつつ、国立美術館としての個性を明確に打ち出すことが求められる。
 国立新美術館については、新世代に身近なメディア等を取り込んで展示する等、新しい芸術表現の発信拠点として、アーティストの育成や、美術領域における国民の生涯学習の場の拡充という基本理念に則した試みが望まれる。

中期計画の各項目	指標又は評価項目	評価基準					主な実績及び自己評価	評価	評価委員会によるコメント																														
		S	A	B	C	F																																	
<p>1. 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開</p> <p>(1) 多様な鑑賞機会の提供</p> <p>-1 利用者のニーズ、学術的動向を踏まえ、各館において魅力ある質の高い常設展・企画展や企画上映を実施する。</p> <p>-2 常設展は、国立美術館の各館の特色を十分に発揮したものとするとともに、最新の研究成果を基に、美術に関する理解の促進に寄与することを目指す。</p> <p>-3 企画展は、積年の研究成果に基づき、時宜を得たものを企画し、学術水準の向上に寄与するとともに、利用者のニーズに対応しつつ、特に次の観点に留意して実施する。</p> <p>(イ)国際的視野に立ち、海外の主要美術館と連携し、確固たる評価を得ている世界の美術を紹介するとともに、我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介する展覧会等に積極的に取り組む。</p> <p>(ロ)展覧会テーマの設定やその提示方法等について新しい方向性を示すことに努める。</p> <p>(ハ)メディアアート、アニメ、建築など我が国が世界から注目される新しい領域の芸術表現を積極的に取り上げ、最先端の現代美術への関心を促す。</p> <p>(ニ)過去の埋もれていた作家・作品・動向の発見や再評価に努める。なお、企画展の開催回数は概ね以下のとおりとする。</p> <p>(東京国立近代美術館)</p> <p>本館 年3回～5回程度 工芸館 年2回～3回程度 フィルムセンター 年5番組～6</p>	<p>展覧会への取組(常設展) 【定性的に評価】</p>	<p>1. 美術振興の中心的拠点としての多彩な活動の展開</p> <p>(1) 多様な鑑賞機会の提供</p> <p>常設展</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>館名</th> <th>開催日数</th> <th>展示替回数</th> <th>入館者数</th> <th>目標数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京国立近代美術館本館</td> <td>292</td> <td>5</td> <td>255,665</td> <td>195,000</td> </tr> <tr> <td>東京国立近代美術館工芸館</td> <td>78</td> <td>1</td> <td>40,703</td> <td>17,000</td> </tr> <tr> <td>京都国立近代美術館</td> <td>305</td> <td>14</td> <td>274,268</td> <td>123,000</td> </tr> <tr> <td>国立西洋美術館</td> <td>305</td> <td>0</td> <td>273,421</td> <td>266,000</td> </tr> <tr> <td>国立国際美術館</td> <td>269</td> <td>4</td> <td>188,861</td> <td>139,000</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,249</td> <td>24</td> <td>1,032,918</td> <td>740,000</td> </tr> </tbody> </table> <p>注 国立西洋美術館の常設展は通年で開催しているが、随時展示作品の入れ替えを行うとともに、版画所蔵作品展を併設（平成18年度は3回開催）している。）</p> <p>各館の特徴</p> <p>ア 東京国立近代美術館</p> <p>【本館】</p> <p>日本画、洋画、版画、水彩・素描、彫刻、写真等の各分野にわたる約9,500点の所蔵作品の中から、180～250点の作品を選び、3フロアを使用し、近代美術の流れが概観できるように展示した所蔵作品展「近代日本の美術」や特定の作家・テーマに沿った特集展示を行っている。</p> <p>平成18年度は、様々な小特集を充実させることにより、多くの人々の興味・関心を喚起し、新聞・雑誌等にも取り上げられた。とりわけ展示室「ギャラリー4」の特集では、国立美術館他館の作品を併せて展示するとともに、パンフレットも作成・配布した。展示に企画性を持たせることにより、編年的に展示するだけでは見えてこない作品の新たな魅力を強調することができた。</p> <p>また、現代美術への関心を高めるため、作家が作品の前で語るアーティストトークを5回実施し、その模様をDVD化し閲覧できるようにした。また、要望の多かった音声ガイドについて、平成19年度実施に向けて準備を進めた。新聞広告による常設展のアピールも認知度の向上に成果をあげた。</p> <p>【工芸館】</p> <p>陶磁、ガラス、染織、漆工、木竹工、金工・ジュエリー、人形、グラフィック・デザイン等の各分野にわたる約2,600点の所蔵作品の中から、約90～100点の作品を選び、工芸の歴史や特定のテーマに沿った展示を行っている。</p>	館名	開催日数	展示替回数	入館者数	目標数	東京国立近代美術館本館	292	5	255,665	195,000	東京国立近代美術館工芸館	78	1	40,703	17,000	京都国立近代美術館	305	14	274,268	123,000	国立西洋美術館	305	0	273,421	266,000	国立国際美術館	269	4	188,861	139,000	計	1,249	24	1,032,918	740,000	A	<p>常設展は数年前に比較すると進展が見られ、努力を評価する。しかし、各館の所蔵作品を展示するだけでは、特色を発揮した展示とはいえず、独立行政法人国立美術館として、所蔵品の活用（展示）をより積極的に行うべきである。</p> <p>また、特に高校生の来館状況を把握することを念頭に世代別入館者数のデータを収集することが望まれる。</p> <p>【各館個別事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・東京国立近代美術館については、本館における一連のテーマ展を高く評価したい。しかし他方で、デザイン・ミュージアムに相応する工芸館の入館者数を増やすため、施設やアクセス等に改善の工夫を期待したい ・国立西洋美術館については、通史的な展観のみならず小テーマによる展示などの活性化を期待したい。 ・京都国立近代美術館が行っているような、「常設」というイメージを変えるような展示替えを行うことも一つの工夫であると思われる。
館名	開催日数	展示替回数	入館者数	目標数																																			
東京国立近代美術館本館	292	5	255,665	195,000																																			
東京国立近代美術館工芸館	78	1	40,703	17,000																																			
京都国立近代美術館	305	14	274,268	123,000																																			
国立西洋美術館	305	0	273,421	266,000																																			
国立国際美術館	269	4	188,861	139,000																																			
計	1,249	24	1,032,918	740,000																																			

<p>番組程度 (京都国立近代美術館) 年6回～7回程度 (国立西洋美術館) 年3回程度 (国立国際美術館) 年5回～6回程度 (国立新美術館) 年6回～7回程度(公募展を除く。)</p> <p>-4 各館で展覧会を開催するにあたっては、実施目的、期待する成果、学術的意義を明確にし、専門家等からの意見を聞くとともに、入館者に対するアンケート調査を実施、そのニーズや満足度を分析し、それらを展覧会に反映させることにより、常に魅力あるものとなるよう努める。</p> <p>-5 各館の連携による共同企画展の実施について検討し推進する。 地方における鑑賞機会の充実、所蔵作品の効果的活用を図る観点から、地方のニーズを反映させた地方巡回展を積極的に行う。 また、公立文化施設等と連携協力して、所蔵映画フィルムによる優秀映画鑑賞会を実施する。 入館者数については、各館で行う展覧会ごとに実施目的、想定する入館者層、実施内容、学術的意義、良好な観覧環境の確保、広報活動、過去の入館者等の状況等を踏まえて入館者数の目標を設定し、その達成に努める。 映画フィルム・資料の所蔵作品を活用した上映、展示等の活動に重点的に取り組む。</p>		<p>工芸館の常設展は、これまでは「所蔵作品展：近代工芸の名品」又は「所蔵作品展：近代工芸の百年」として開催してきたが、平成18年度から、タイトルを「花より工芸：新収蔵作品を中心に2001-2005」、「所蔵作品展：近代工芸の百年／特集展示：ルーシー・リーとハンス・コパー」のように展示内容をアピールするものに工夫した。季節に応じた展示内容とするとともに、欧米の人気作家の特集展示を行った。また、要望の多い、作品名の読み、素材、技法を記した資料を配布した。</p> <p>イ 京都国立近代美術館 日本画、洋画、版画、彫刻及び陶芸、染織、金工、木竹工、漆工、ジュエリー等の工芸、写真等約8,600点の中から、展示替え(年14回)を行い、近代日本美術の代表作や記念的な作品を中心に欧米の近・現代作品も併せて展示するとともに、企画展に合わせた小企画も同時開催している。 平成18年度は、企画展と連動した小企画やテーマ展示を充実させた。また、期間を限定して一般鑑賞者が特に希望する作品を展示する「視て考えて・・・私が見つかる美術のセカイ あなたのコレクション」、大学の授業に美術館が協力し、その研究成果発表の機会として「スチューデント・セレクト - 同志社大学プロジェクト科目受講者による京都国立近代美術館コレクション展」を開催するなど、実験的な試みを行った。</p> <p>ウ 国立西洋美術館 松方コレクション(印象派の絵画及びロダンの彫刻を中心とするフランス美術コレクション)及び中世末期から20世紀初頭までの西洋美術に関する作品の中から、絵画、素描、版画、彫刻、工芸等150～200点の作品を選び、西洋美術の流れが概観できる展示を行っている。 平成18年度は、前年度に購入した絵画作品6点を常設展に加えたことにより、特に18世紀以前のフランドル及びイタリア絵画の展示を充実した。固定化されていた19世紀後半の展示についても、一部作品の入れ替えを行うとともに、年間を通じて版画作品展を併設した。 また、1月2日には「美術館へ行こう～A Day in the Museum(特定非営利活動法人美術ファンクラブ等と協力)を開催し、常設展の無料観覧及び特別企画を実施した。本企画により、多くの入館者(4,848人)があった。</p> <p>エ 国立国際美術館 美術作品の展示を通じ、日本美術の成立と発展が、世界の美術と密接な関係を有することを系統的・具体的に明らかにするとともに、我が国と世界の現代美術の新しい動向を分かりやすく展示している。平成18年度は、展示テーマごとに、作品が制作された背景や作家の意図等を解説し、作品理解の一助とするなど、広い見地から現代美術への理解を深められるよう工夫した。また、常設展への関心を高めるため、企画展と関連のある作品を展示した。</p>	
<p>展覧会への取組(企画展) 【定性的に評価】</p>		<p>企画展 企画展は、利用者のニーズに応え、以下の観点に留意して実施した。 (イ)国際的視野に立ち、海外の主要美術館と連携し、確固たる評価を得ている世界の美術を紹介するとともに、我が国の作家や芸術的動向を海外に紹介する展覧会等に積極</p>	<p>A 中期計画通り、十分な成果をあげている。 巡回展については、必ずしもそれぞれの企画趣旨が明確でない場合が</p>

的に取り組む。

(ロ) 展覧会のテーマ設定やその提示方法等について新しい方向性を示すことに努める。

(ハ) メディアアート、アニメ、建築など我が国が世界から注目される新しい領域の芸術表現を積極的に取り上げ、最先端の現代美術へ関心を促す。

(ニ) 過去の埋もれていた作家・作品・動向の発見や再評価に努める。

(ホ) その他

館名	展覧会名	開催日数	入館者数	目標数	企画趣旨
東京国立近代美術館・本館	生誕120年 藤田嗣治展	46	295,665	141,000	イ
	生誕100年記念 吉原治良展	42	19,020	13,000	ホ (*1)
	ゾーン・バラダ 久展 大原美術館+東京国立近代美術館-東西名画の饗宴	54	84,682	67,000	ロ
	写真の現在3 臨界をめぐる6つの試論	42	17,893	14,000	ロ
	揺らぐ近代 日本画と洋画のはざまに	48	15,347	16,000	ロ
	都路華香展	39	11,043	12,000	ニ
	生誕100年 豊光展	2	1,021	1,000	ロ
	計	273	444,671	264,000	

館名	展覧会名	開催日数	入館者数	目標数	企画趣旨
東京国立近代美術館・工芸館	萩焼の造形美 人間国宝 三輪壽雪の世界	62	28,751	15,000	ロ
	ジュエリーの今:変貌のオブジェ	56	11,063	9,000	ロ
	漆芸界の巨匠 人間国宝 松田権六の世界	57	44,563	13,000	ロ
	柳宗理 - 生活の中のデザイン -	39	34,418	14,000	ロ
	青磁を極める - 岡部嶺男展	24	4,094	5,000	ニ
	計	238	122,889	56,000	

館名	展覧会名	開催日数	入館者数	目標数	企画趣旨
京都国立近代美術館	ドイツ表現主義の彫刻家 - エルンスト・バルラハ展	2	3,129	1,000	イ
	フンデルトヴァッサー展	37	30,634	20,000	ロ
	藤田嗣治展	48	224,297	75,000	イ
	富本憲吉展	36	36,796	19,000	ロ
	ブライスコレクション若沖と江戸絵画展	38	110,419	25,000	イ,ロ
	都路華香展	33	9,139	13,000	ニ
	揺らぐ近代 - 日本画と洋画のはざまに	41	18,116	10,000	ロ
	アール・デコ・ジュエリーの世界 輝きの詩人シャルル・ジャコール、プシュロン、ラリックらの宝飾デザイン展	23	17,166	16,000	イ,ニ
	計	258	449,696	179,000	

見受けられる。展覧会テーマの設定について、中期計画に明記されている「新しい方向性を示すことに努める」とことや「メディアアート、アニメ、建築など我が国が世界から注目される新しい領域」開拓の点でやや不足が生じている印象があり、今後の取組を要請したい。

また地方巡回展は、国立美術館全体のコレクションの活用と予算が厳しい状況におかれている地方美術館の活性化にとって重要であり、今後とも積極的に実施されることが期待される。

【各館個別事項】

・東京国立近代美術館の「藤田嗣治」展、京都国立近代美術館の「エルンスト・バルラハ」展、国立国際美術館の「シグマー・ポルケ」展は、画期的な意義をもつ展観を実現しており、学術的な次元で、その努力を多としたい。東京国立近代美術館の「モダン・パラダイス」展は、身振り・楽園などからなる展示構成が巧みで、いわゆる所蔵名品展の単調さを克服した内容で興味深かった。

・国立西洋美術館については、企画の質の高さに比して、多数の入館者を得られなかった展覧会があり、広報活動等について工夫を期待したい。

館名	展覧会名	開催日数	入館者数	目標数	企画趣旨
国立西洋美術館	ロダンとカリエール	57	80,019	143,000	イ,ロ,ニ
	ベルギー王立美術館展	78	247,009	252,000	イ,ロ
	イタリア・ルネサンス版画展	23	11,881	9,000	イ
	計	158	338,909	404,000	

館名	展覧会名	開催日数	入館者数	目標数	企画趣旨
国立国際美術館	ブーシキン美術館展	2	13,689	10,000	イ
	ジグマー・ボルケ展	49	16,819	10,000	イ,ロ
	三つの個展：伊藤存,今村源,須田悦弘	73	19,088	13,000	ロ,ハ
	金子潤展	45	15,612	9,000	ロ
	小川信治展	74	22,090	15,000	ハ
	エッセンシャル・ペインティング	72	16,325	15,000	イ,ロ
	ピカソの版画と陶芸	62	113,380	87,000	ホ(*2)
	大阪コレクションズ	60	109,228	87,000	ロ
	計	437	326,231	246,000	

館名	展覧会名	開催日数	入館者数	目標数	企画趣旨
国立新美術館	開館記念展：20世紀美術探検	51	89,475	100,000	ロ,ハ
	異邦人(エトランジェ)たちのバリ1900-2005	46	190,333	120,000	イ,ロ,ハ
	黒川紀章展	51	166,793	73,000	ハ
	文化庁メディア芸術祭10周年企画展	14	52,093	27,000	ハ
	計	162	498,694	320,000	

	入館者数	目標数
法人全体	2,181,090	1,469,000

* 1) 東京国立近代美術館の「生誕100年 吉原治良」展は、複数館の共同調査・研究を大成した回顧展であり、(イ)(ロ)(ハ)(ニ)に該当しない展覧会であるため(ホ)その他とした。

* 2) 国立国際美術館の「ピカソの版画と陶芸」展は、貴重な寄託作品の有効な活用に努めた展覧会であり、(イ)(ロ)(ハ)(ニ)に該当しない展覧会であるため(ホ)その他とした。

地方巡回展

企画館	展覧会名	開催館	開催日数	入館者数
京都国立近代美術館	独立行政法人国立美術館所蔵作品展「名作と出会う 洋画・日本画・工芸・彫刻」	石橋財団石橋美術館	45	15,624
東京国立近代美術館・工芸館	やきものの美・東京国立近代美術館工芸館名品展	倉敷市立美術館	39	5,330
		はつかいち美術ギャラリー	39	4,421
京都国立近代美術館	京都国立近代美術館所蔵品展	平塚市美術館	37	9,361
		そごう美術館	31	21,419
		富山県水壘美術館	38	15,941
		大分市美術館	40	10,209
国立国際美術館	佐伯祐三とパリの夢：大阪コレクション	大阪市立近代美術館 心齋橋展示室	63	27,338
東京国立近代美術館・フィルムセンター	優秀映画鑑賞推進事業	全国179会場	418 (延べ日数)	94,684
計				204,327

東京国立近代美術館フィルムセンター映画上映等

【上映会】

タイトル	会場	作品数	日数	入館者数	目標数	共催者
シナリオ作家 新藤兼人	大ホール	67	48	22,018	21,000	
NFC所蔵外国映画選集 フランス古典映画への誘い	大ホール	34	24	11,348	6,500	東京日仏学院
ロシア文化フェスティバル 2006 IN JAPAN ロシア・ソビエト映画祭	大ホール	28	24	9,538	6,000	ロシア・ソビエト映画祭実行委員会
日本映画史横断 日活アクション映画の世界	大ホール	57	48	13,250	15,000	
日豪交流年2006 オーストラリア映画祭	大ホール	41	24	5,287	3,500	オーストラリア・フィルム・コミッション
没後50年 溝口健二再発見	大ホール	35	41	22,089	16,000	
第7回東京フィルメックス 特集上映 岡本喜八 日本映画のダンディズム	大ホール	12	8	3,300	3,500	NPO法人東京フィルメックス実行委員会
日本映画史横断 歌謡・ミュージカル映画名作選	大ホール	27	27	9,937	6,500	
シリーズ・日本の撮影監督(2)	大ホール	55	47	17,239	15,000	
映画の教室2006	小ホール	12	12	3,270	1,500	
アンコール特集:2005年度上映作品より	小ホール	15	9	2,173	1,000	
生誕100周年記念 美術監督 水谷浩 作品選集	小ホール	10	9	2,109	1,000	
シネマの冒険 闇と音楽 2006	小ホール	18	9	1,398	1,000	
CHANGARA 市川右太衛門	小ホール	10	9	1,819	1,000	
計		421		124,775	98,500	

【展覧会】

展覧会名	日数	入館者数	目標数
生誕100周年記念 美術監督 水谷浩の仕事 併設：展覧会 映画遺産 東京国立近代美術館フィルムセンターコレクションより	144	4,969	6,500
生誕110周年記念 衣笠貞之助の世界 併設：展覧会映画遺 産 東京国立近代美術館フィルムセンターコレクションより	147	4,325	5,500
計	291	9,294	12,000

(東京国立近代美術館) 本館	1	3回以上	-	3回未満	2	実績：7回 (前年度実績：7回)	A
工芸館		2回以上	-	2回未満		実績：5回 (前年度実績：4回)	A
フィルムセンター		5番組 以上	4番組	4番組 未満		実績：14番組 (前年度実績：11番組)	A
(京都国立近代美術館)		6回以上	5回	5回未満		実績：8回 (前年度実績：9回)	A
(国立西洋美術館)		3回以上	-	3回未満		実績：3回 (前年度実績：4回)	A
(国立国際美術館)		5回以上	4回	4回未満		実績：8回 (前年度実績：8回)	A
(国立新美術館)		6回以上	5回	5回未満		実績：4回 (前年度実績：回)	-

(2) 美術創造活動の活性化の推進
国立新美術館は、全国的な活動を行っている美術団体等に展覧会会場の提供を行うとともに、新しい美術の動向を紹介することなどを通じて、美術に関する新たな創造活動の展開やアーティストの育成等を支援し、我が国の美術創造活動の活性化に資する。
また、メディアアート、アニメ、建築など世界から注目される新しい芸術表現の国内外に向けた拠点的な役割を果たすことを目指し、その取り組みを積極的に進める。

国立新美術館の取組
【定性的に評価】

(2) 美術創造活動の活性化の推進

公募展等への展覧会会場の提供(国立新美術館)

平成19年度からの美術団体等への展覧会(公募展)会場提供事業の開始に向けて、以下の活動を行った。

- ・ 施設見学会の実施(平成18年8月～11月)
- ・ 作品搬入、審査等を行う諸室等の割振の実施
- ・ 使用手引きの作成
- ・ 施設・備品等の効率的な運用を図るため、バックヤード等の施設・備品等の運用に関するワーキンググループ委員会の開催(5回)
- ・ 平成20年度使用団体の決定(平成18年5月)
- ・ 平成21年度使用団体の募集(平成19年2月)

新しい芸術表現への取り組み

B

新しい芸術表現の発信拠点として、個性を發揮するよう今後に期待したい。公募展への展覧会会場の提供にあたっては、国立新美術館の中期目標にうたわれているように、アーティストの育成や、美術領域における国民の生涯学習の拡充にあるならば、単に会場を提供するのではなく、そうした基本理念に則した試みがなされるべきであろう。
初年度の特異性なのかもしれないが、大規模な集客に美術館活動の力点を置いている印象があるため、多様な芸術を展示する姿勢を堅持する

展覧会名	日数	ジャンル	入館者数	目標数	共催者
20世紀美術館探検	51	ガイデアート, インスタレーション	89,475	100,000	なし
黒川紀章展	51	建築	166,793	73,000	実行委員会
文化庁メディア芸術祭 10周年企画展	14	アニメーション,マンガ, デジタルアート, ゲーム	52,093	27,000	文化庁
異邦人(エトランジ エ)たちのパリ	46	ガイデアート	190,333	120,000	朝日新聞社他
計	162		498,694	320,000	

ことが望まれる。

【各館個別事項】

企画展については、新展示会場として使い慣れることに努め、また一方メディアアートなど新しい美術領域を展示するための先導的役割を果たしてもらいたい。

(3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上

国立美術館について、所蔵作品、展覧会種別、その他の種別状況を積極的に広く社会に紹介し、国立美術館についての理解を得るよう努めるとともに、国内外の美術に関する情報の収集・提供・利用の促進に努める。

ICT(情報通信技術)を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等の積極的な情報発信やホームページの充実を図り、ホームページのアクセス件数の年間の平均が、前中期目標期間の年間平均を上回る実績となるよう努める。

-1 美術史その他の関連学に関する基礎資料、国内外の美術館や展覧会に関する情報及び資料を収集し、展覧会活動の推進に役立てるとともに、図書室等において芸術文化の情報サービスを広く提供できるよう努め、その利用者数が前中期目標期間の年間平均を上回るよう努める。

-2 所蔵作品データ、所蔵資料データのデジタル化を一層推進し、ネットワークを通じてより高質で多様なコンテンツの提供を進めるとともに、本5年間の中期目標期間中のインターネット上での公開件数の実績が、前中期目標期間の実績を上回るよう努める。

情報の発信
【定性的に評価】

(3) 美術に関する情報の拠点としての機能の向上

情報通信技術(ICT)を活用した展覧会情報や調査研究成果などの公表等ホームページのアクセス件数

館名	アクセス件数	目標件数(第1期平均)
本部	280,860	74,434
東京国立近代美術館	6,979,128	4,341,163
京都国立近代美術館	2,610,420	222,502
国立西洋美術館	1,156,815	720,126
国立国際美術館	542,094	366,054
国立新美術館	6,463,532	-
計	18,032,849	5,724,279

各館のICT活用の特徴

ア 東京国立近代美術館

ホームページのトップページのデザインをリニューアルするとともに、展覧会などの情報を迅速に更新するため、各担当係がアップデートできる体制とした。

また、本館アートライブラリが所蔵する国内展覧会カタログの書誌・所在情報の国立情報学研究所目録所在情報サービス(NACSIS-CAT)への登録について、同研究所の遡及入力支援事業により4,004件を登録した。

独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムについて、作品及び作家解説の閲覧ができるようシステムを更新するとともに、1,520件の解説を掲載した。

A

ホームページの充実や、受信発信の双方向性の開拓など、美術振興の中核的拠点として情報発信に努めていることが認められ、特にNACSIS-CATとの連携など、我が国の学術水準のレベルアップに大きく貢献する近年の努力、また本年度の活動を評価する。

所蔵作品の目録検索システム、展覧会カタログの書誌・所在情報などについては、可能な範囲で情報を一元化し、より一層幅広く提供することが望まれる。法人として積極的に、館の活動紹介をコンテンツとして作成すること等を試みてはどうか。

-3 国立美術館全体の機能として、ネットワーク共有を前提とするIDC（インフォメーションデータセンター）を確立し、美術館における情報技術の活用策を積極的に開発しながら、その知見を広く共有化することに努める。

また、同システムへの著作権のある作品画像掲載を進めるため、日本画の著作権者情報を整備するとともに、作品画像の掲載を推進するため著作権許諾申請手続を開始した。

イ 京都国立近代美術館

ホームページの構造・デザインをリニューアルし、展覧会情報の公開等情報の更新を迅速に行う体制を整えた。

また、「Collection on Demand」、「電子メール討論会」等、情報通信技術の特色である双方向性を生かした新しい試みを実施した。

ウ 国立西洋美術館

電子タグやエリアポータル放送など先端技術を取り入れて美術に一層親しんでもらうことを目指す「ウェル. com美術館プロジェクト」を立ち上げ、映像ガイド端末やオン・デマンド印刷などによる来館者サービスの実証実験を行った。

また、展覧会情報や調査研究成果の公表を効果的に行うため、ホームページの構成等の見直しを検討し、来年度、ホームページのニューアルを行うこととした。

エ 国立国際美術館

ヤフー等の検索サイトを活用し、展覧会等の情報を利用者に分かりやすく提供することにより、展覧会の内容や館の周知に努めた。

オ 国立新美術館

インターネット上で他の美術館や公募団体展、画廊での展覧会情報（1万件）を検索できるサービス「アート commons」を開始した。また、東京国立近代美術館、国立西洋美術館が参加する、「美術図書館連絡会」（ALC）の美術図書館横断検索システムに参加した。

**美術情報の収集、記録の作成・蓄積、デジタル化、レファレンス機能の充実
図書資料等の収集**

館名	収集件数	累計件数	利用者数	目標数
東京国立近代美術館本館	2,784	102,456	3,252	1,853
東京国立近代美術館工芸館	1,071	14,683	332	317
東京国立近代美術館フィルムセンター	1,017	26,230	3,009	3,085
京都国立近代美術館	1,472	13,685	-	-
国立西洋美術館	4,691	40,511	349	119
国立国際美術館	1,266	30,792	-	-
国立新美術館	51,942	51,942	45,247	-
計	64,243	280,299	52,189	5,374

注1 京都国立近代美術館は4階、国立西洋美術館は1階、国立国際美術館は地下1階にカタログ等が閲覧できる情報コーナーを設け、入館者が自由に閲覧できるようにしており、その場所については、利用者数の把握はしていない。

注2 国立新美術館は目標数を設定していない。

特記事項

国立西洋美術館は、国内における西洋美術史研究のセンター的機能を担うため、今後、中世末期以降20世紀初頭に到る西洋美術に関する資料の重点的収集に努めるとともに、その方策の検討に着手した。

国立新美術館では、JAC (Japan Art Catalog) プロジェクトとして、海外では入手が困難な日本で開催された展覧会カタログをとりまとめ、欧米の美術研究の拠点(フリーア美術館(米国)他3機関)に送り、日本の美術館による最新の研究成果を発信した。

所蔵作品データ等のデジタル化

館名		画像データ				テキストデータ			
		デジタル化件数	デジタル化累計	公開件数	目標公開件数	デジタル化件数	デジタル化累計	公開件数	目標公開件数
東京国立近代美術館	本館	480	9,704	1,400	1,394	136	9,490	9,202	9,144
	工芸館	400	2,593	44	23	52	2,593	2,541	2,516
	フィルムセンター (映画関連資料)	0	0	-	-	7,155	85,271	-	-
京都国立近代美術館		500	5,350	517	517	454	8,628	6,950	5,612
国立西洋美術館		1,437	1,770	202	202	66	4,511	4,244	4,058
国立国際美術館		3,407	5,472	5	5	119	6,306	5,330	5,101
計		6,224	24,889	2,168	2,145	7,982	116,799	28,355	26,431

注 「公開件数」は、所蔵作品総合目録における画像及びテキストデータの公開件数である。

インフォメーションデータセンター(IDC)の確立

国立美術館情報ネットワーク構築のため、東京国立近代美術館及び国立新美術館においてVPN(暗号化された通信網)を整備するとともに、平成19年度実施予定の国立美術館全5館による情報ネットワーク確立のための検討を行った。

また、東京国立近代美術館及び国立新美術館において、図書管理システムの相互運用をVPNを用いて効率的に行った。

国立美術館所蔵作品総合目録検索システムは引き続きデータの追加更新を行うとともに、画像掲載の増加を図るため、日本画作品の著作権許諾の手続きを開始した。

- 1 S : 特に優れた実績を上げている(客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評価を付す)
- 2 F : 評価委員会として業務運営の改善その他の勧告を行う必要がある(客観的基準は事前に設けず、業務改善の勧告が必要と判断された場合に限りFの評価を付す)

ホームページのアクセス件数

1 | 5,724,279 | 4,006,995 | 4,006,995 | 2 | 実績 : 18,032,849件

A

	<p>【定量的に評価】</p> <p>図書室の利用者数 【定量的に評価】</p> <p>コンテンツの提供 【参考指標】</p>	<table border="1"> <tr> <td>件以上</td> <td>件以上5,724,279件未満</td> <td>件未満</td> </tr> <tr> <td>5,374人以上</td> <td>3,762人以上5,372未満</td> <td>3,762人未満</td> </tr> </table> <p>目標となる前中期期間中の公開件数 28,576件</p>	件以上	件以上5,724,279件未満	件未満	5,374人以上	3,762人以上5,372未満	3,762人未満	<p>(前中期平均：5,724,279件)</p> <p>実績：52,189人 (前中期平均：5,374人)</p> <p>本中期期間中の累積公開件数 30,523件(進捗率107%)</p>	A																															
件以上	件以上5,724,279件未満	件未満																																							
5,374人以上	3,762人以上5,372未満	3,762人未満																																							
<p>(4) 国民的美的感性の育成</p> <p>国立美術館における美術教育に関する調査研究の成果を踏まえ、学校や社会教育施設等との連携強化により、子どもから高齢者までを対象とした幅広い学習機会を提供し、各館の年間の平均参加者数が前中期目標期間の年間平均の実績を上回るよう、それらの参加者数の増加に積極的に取り組む。</p> <p>ボランティアや支援団体の育成と相互協力による教育普及事業の充実を図る。また、ボランティアの参加人数及び活動日数の増加に積極的に取り組む。</p> <p>映画フィルム・資料の所蔵作品を活用した教育普及活動に重点的に取り組む。</p>	<p>教育普及活動の実施状況 【定性的に評価】</p>	<p>(4) 国民的美的感性の育成 幅広い学習機会の提供(講演会、ギャラリートーク、アーティストトークなど)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>館名</th> <th>実施回数</th> <th>参加者数</th> <th>目標数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京国立近代美術館本館</td> <td>74</td> <td>3,389</td> <td>2,718</td> </tr> <tr> <td>東京国立近代美術館工芸館</td> <td>35</td> <td>2,378</td> <td>1,285</td> </tr> <tr> <td>東京国立近代美術館フィルムセンター</td> <td>77</td> <td>7,449</td> <td>1,470</td> </tr> <tr> <td>京都国立近代美術館</td> <td>25</td> <td>1,638</td> <td>1,590</td> </tr> <tr> <td>国立西洋美術館</td> <td>155</td> <td>6,892</td> <td>5,582</td> </tr> <tr> <td>国立国際美術館</td> <td>51</td> <td>2,190</td> <td>2,340</td> </tr> <tr> <td>国立新美術館</td> <td>49</td> <td>4,788</td> <td>-</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>466</td> <td>28,724</td> <td>14,985</td> </tr> </tbody> </table> <p>各館の特徴</p> <p>ア 東京国立近代美術館</p> <p>【本館】 常設展、企画展等において、講演やアーティストトーク、キュレータートークを実施した。 また、「夏休み!こども美術館」を実施するとともに、フォローアップ研修等によりボランティアスタッフの、子どもへの鑑賞指導スキルの向上を図った。このことにより、児童生徒が申し出る展覧会見学への対応をボランティアスタッフが行う体制を整えた。この効果は、児童生徒を対象とするギャラリートークの回数・参加者数が増加したことに現れている。</p> <p>【工芸館】 展覧会企画にあわせて外部研究者や作家によるギャラリートークを実施し、様々な入館者に応じた解説を行った。パフォーマンスや制作のデモンストレーションの開催は、作品鑑賞の多様な可能性を提言することができ、アンケート結果も好評であった。</p>	館名	実施回数	参加者数	目標数	東京国立近代美術館本館	74	3,389	2,718	東京国立近代美術館工芸館	35	2,378	1,285	東京国立近代美術館フィルムセンター	77	7,449	1,470	京都国立近代美術館	25	1,638	1,590	国立西洋美術館	155	6,892	5,582	国立国際美術館	51	2,190	2,340	国立新美術館	49	4,788	-	計	466	28,724	14,985		A	<p>市民の参加を前提としたワークショップやギャラリートーク等で研究員(学芸員)などが鑑賞者と積極的に対話を交わす努力が見受けられる。公私立館との共通性や役割分担、5館の共通性と個性をどのように打ち出すかを明確にし、より積極的な試みがなされるよう、期待する。</p> <p>教育普及活動やボランティア活動については、法人全体としての方向性を積極的に出し、国内外の先進例・好例を紹介するなど、ナショナルセンターとしての取組が望まれる。</p> <p>【各館個別事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 京都国立近代美術館における視覚障害者を対象とする活動は注目に値する。今後の継続的展開を見守りたい。 ・ 国立西洋美術館における教育普及活動の積極性と工夫を他館にも広げることがあると思われる。 ・ 教育機関に対するフィルムセンターの鑑賞授業など教育上映活動は、極めて有意義であり、今後も一層の普及を期待する。
館名	実施回数	参加者数	目標数																																						
東京国立近代美術館本館	74	3,389	2,718																																						
東京国立近代美術館工芸館	35	2,378	1,285																																						
東京国立近代美術館フィルムセンター	77	7,449	1,470																																						
京都国立近代美術館	25	1,638	1,590																																						
国立西洋美術館	155	6,892	5,582																																						
国立国際美術館	51	2,190	2,340																																						
国立新美術館	49	4,788	-																																						
計	466	28,724	14,985																																						

児童生徒向けの鑑賞教材（セルフガイド）は、作品の解説に合わせて作品図版を部分と全体との2段階で見せたり、制作工程の図解等の工夫を加えて、分かりやすい内容とした。また、セルフガイド配布に当たっては、保護者や引率教員に、セルフガイドの活用案を記載した館内で作成した資料を手渡した。

文京区駒本小学校との共同プログラムでは、館内でのガイドに留まらず、事前・事後の学習においても協力関係を築くなど、今後の連携の在り方や児童生徒向けの鑑賞教育を検証するモデルケースとなった。

なお、平成15年度から18年度までの鑑賞プログラムの報告書を作成し、プログラム当日の実施内容だけでなく、計画段階から準備の詳細、さらに参加者の反応等を詳細に記録・検証し、今後の課題や鑑賞授業への提案とともにまとめた。

【フィルムセンター】

常設展「映画遺産」に関連して展示資料を平易に解説した子ども向けのセルフガイド（解説カード）を配付した。

イ 京都国立近代美術館

美術館の鑑賞者・利用者の側から、美術館活用の自発的な提案が増加してきた。これは、鑑賞理念や美術館活用の潜在的な可能性について、当館が鑑賞教育指導者と長年にわたり研究・試行してきた努力の成果が実を結び始めたものである。

また、NPO法人の視覚障害者に対する美術体験の場を提供し、作品解説等の協力を行った。

ウ 国立西洋美術館

東京都図画工作研究会、東京国立近代美術館との共同による鑑賞と美術館利用のための教員研修会の成果としてスクール・ギャラリートークの利用学校数が増加した。

また、幅広い学習の機会を提供するため、未修学児童を含む家族向けのプログラムの充実を図るとともに、ボランティア・スタッフの自発性を尊重しつつ協力して企画を練り、低年齢層の児童向けのワークシートなどを作成し、参加した家族から好評を得た。

「Funwith CollectionいろいろメガネPart 2 - みんなの見かた紹介します」では、昨年度に実施したプログラムによって美術館利用者から集めた美術作品の多様な楽しみ方の視点を、展示と印刷物でフィードバックし、来館者から好評を得た。

また、教育普及事業のファミリープログラムで使用している未修学児童を対象として開発した教材「びじゅつーる」を、小学生を対象としたスクール・ギャラリートークにおいても活用した。なお、小・中学生を対象とする常設展のガイドブックについて評価調査を実施した結果、中学生にはより多くの情報・知識を含むガイドブックの開発が必要であることが分かり、その作成の検討に入った。

エ 国立国際美術館

企画展に関する講演会等については、参加者の8割以上から好評を得た。子どものプログラムについては、とりわけ、「小川信治展」における作家と子どもの共同作業が、子どもたちが作家から直接話を聞いた上で成立するものであることから、子どもたちにとっては、作家の生の声と濃密な時間を共有する充実した内容となった。制作した作品は、会期中展示した。

オ 国立新美術館

教育普及事業の実施に当たり、展覧会の出品作品の特徴や作家の活動などについて、幅広い層の入館者の理解が促進されるよう事業内容の充実に努めた。

特に開館記念展では、現役作家によるアーティストトークで作家の作品に対する思いを直に聞く貴重な機会を提供した。

また、当館シンボルマーク、ロゴを制作したデザイナー佐藤可士和氏によるワークショップや講演会についても、子どもたちが直接作家と接することのできる機会を提供した。

実施に当たっては、学生ボランティア「サポート・スタッフ」の事業への参加を促し、美術館活動の実地体験の機会を提供した。

ボランティアや支援団体の育成等による教育普及事業

ボランティアによる教育普及事業

館名	ボランティア登録人数	ボランティア参加者数	事業参加者数
東京国立近代美術館	51	556	10,736
京都国立近代美術館	30	204	-
国立西洋美術館	18	556	2,937
国立国際美術館	86	170	-
国立新美術館	43	162	-
計	228	1,665	13,656

各館の特徴

ア 東京国立近代美術館

本館においては、「夏休み！子ども美術館」実施やフォローアップ研修など、ボランティアの子どもへの鑑賞指導スキル向上を図った。これらの取り組みにより、児童生徒へのギャラリートークが、回数・聴講者数ともに増加している。

工芸館においては、ボランティア（工芸館ガイドスタッフ）は導入から3年目を迎え、第2期目のメンバーを加えたことにより、新たな視点からガイドを実施するなど、その内容の幅が広がったこと、多人数の見学にも充分対応することができるようになった。

イ 京都国立近代美術館

ボランティアを展覧会ごとに募集し、アンケートの聞き取り、広報資料の発送作業等を実施した。

ウ 国立西洋美術館

幅広い学習の機会を提供するため、ボランティア・スタッフの自発性を尊重しつつ協力して企画を練り、低年齢層の児童向けのワークシートなどを作成し、参加した家族から好評を得た。

エ 国立国際美術館

教育普及事業の補助業務、広報資料の発送及び図書資料等の整理補助業務を実施した。

オ 国立新美術館

教育普及事業の実施に当たっては、学生ボランティア「サポート・スタッフ」の事業への参加を促し、美術館活動の実地体験の機会を提供した。

支援団体等の育成と相互協力による事業

ア コンサート等の実施

新国立劇場、京都市立芸術大学、東京のオペラの森実行委員会、ダイキン工業現代美術振興財団等との協力により、各館においてコンサートやオペラなどを開催（19回）

イ ぐるっとバスへの参加。

東京の美術館・博物館等49館で実施する共通入館券事業「東京・ミュージアムぐるっとバス2007」及び関西の美術館・博物館等65館で実施する「ミュージアムぐるっとバス・関西2007」に参加し、常設展観覧料金の無料化などを実施。

ウ NPO法人との連携

・東京国立近代美術館（本館）及び国立西洋美術館では「特定非営利活動法人 美術ファンクラブ」ほかとの協力により、「美術館へ行こう A Day in the Museum」を1月2日に無料観覧日として開催するとともに、グッズプレゼントなど特別企画を実施した。

・京都国立近代美術館は、NPO法人「ミュージアム・アクセス・ビュー」と連携し、視覚障害者を対象とする美術体験の場の提供活動において、作品解説等の協力を行った。

エ 六本木地区の美術館等との連携・協力

国立新美術館では、六本木地区の美術館等との連携・協力により「六本木アート・トライアングルマップ」を配布するとともに、六本木ヒルズとの連携・協力により土・日・祝日にシャトルバスを運行した（平成19年3月5日～5月7日：1日23便）

映画フィルム・資料を活用した教育普及活動（フィルムセンター）

小・中学生に映画のおもしろさを知ってもらうことをねらいとして、上映作品や映写機の解説など行う「こども映画館」を実施した（4回、参加者359人）

また、相模原分館では、相模原市教育委員会と連携して、こども向けの名作を上映する「小・中学生向け上映」を実施した（2回、参加者215人）

- 1 S：特に優れた実績を上げている（客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評価を付す）
- 2 F：評価委員会として業務運営の改善その他の勧告を行う必要がある（客観的基準は事前に設けず、業務改善の勧告が必要と判断された場合に限りFの評価を付す）

講演会、ギャラリートーク、アーティストトーク等の年間平均参加者数
【各館ごとに定量的に評価】

(東京国立近代美術館) 本館	1	2,718人以上	1,903人以上 2,718人未満	1,903人未満	2	実績：3,389人 (前中期平均：2,718人)	A
工芸館		1,285人以上	900人以上 1,285人未満	900人未満		実績：2,378人 (前中期平均：1,285人)	A
フィルムセンター		1,470人以上	1,029人以上 1,470人未満	1,029人未満		実績：7,449人 (前中期平均：1,470人)	A

	<p>(京都国立近代美術館)</p> <p>(国立西洋美術館)</p> <p>(国立国際美術館)</p> <p>(国立新美術館)</p>	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>1,590人以上</td> <td>1,113人以上 1,590人未満</td> <td>1,113人未満</td> </tr> <tr> <td>5,582人以上</td> <td>3,907人以上 5,582人未満</td> <td>3,907人未満</td> </tr> <tr> <td>2,340人以上</td> <td>1,638人以上 2,340人未満</td> <td>1,638人未満</td> </tr> <tr> <td>-</td> <td>-</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	1,590人以上	1,113人以上 1,590人未満	1,113人未満	5,582人以上	3,907人以上 5,582人未満	3,907人未満	2,340人以上	1,638人以上 2,340人未満	1,638人未満	-	-	-	<table border="1"> <tbody> <tr> <td>実績：1,638人 (前中期平均：1,590人)</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>実績：6,892人 (前中期平均：5,582人)</td> <td>A</td> </tr> <tr> <td>実績：2,190人 (前中期平均：2,340人)</td> <td>B</td> </tr> <tr> <td>実績：4,788人 (前中期平均：-人)</td> <td>-</td> </tr> </tbody> </table>	実績：1,638人 (前中期平均：1,590人)	A	実績：6,892人 (前中期平均：5,582人)	A	実績：2,190人 (前中期平均：2,340人)	B	実績：4,788人 (前中期平均：-人)	-	
1,590人以上	1,113人以上 1,590人未満	1,113人未満																						
5,582人以上	3,907人以上 5,582人未満	3,907人未満																						
2,340人以上	1,638人以上 2,340人未満	1,638人未満																						
-	-	-																						
実績：1,638人 (前中期平均：1,590人)	A																							
実績：6,892人 (前中期平均：5,582人)	A																							
実績：2,190人 (前中期平均：2,340人)	B																							
実績：4,788人 (前中期平均：-人)	-																							
<p>(5) 調査研究成果の反映 各館の役割・任務に従い、展示、教育普及その他の美術館活動の推進のため、計画的に調査研究を実施するとともに、これらの成果を確実に美術館活動に反映させる。なお、実施に当たっては、国内外の博物館・美術館及び大学等の機関とも連携を図るものとする。</p>	<p>調査研究の実施状況 【定性的に評価】</p>	<p>(5) 調査研究成果の美術館活動への反映 別紙を参照。</p>	B	<p>予算、人員の削減のなかで、努力により進捗している。公的研究費の使用についても、適切に実施されているものと認められる。科研費など研究助成金の申請や外部資金の獲得を促進するためには、独立行政法人全体として統一的なマネジメントを行い、統括・推進することが必要ではないか。学術活動を活発化し、研究員の研究者としての業績の向上を奨励する等の取組を期待する。</p> <p>図録の質と内容は評価できる。また、法人全体としての研究紀要の刊行を検討する時期に来ているのではないか。</p> <p>また、ICOM（国際博物館会議）と適切な関係を持ち、国際的にミュージアムがどのような課題を持っているのか、法人として自覚をもち、国際水準において、抜本的な努力を再確認するように要請したい。</p>																				
<p>(6) 快適な観覧環境の提供 -1 高齢者、身体障害者、外国人等を含めた入館者本位の快適な鑑賞環境の形成のために展示方法・外国語表示・動線等の改善、施設の整備を計画的に行う。</p>	<p>観覧環境の提供 【定性的に評価】</p>	<p>(6) 快適な観覧環境の提供 高齢者、身体障害者、外国人等への対応 各館とも次のような対応を実施している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多目的（障害者用）トイレ、エレベータ（エスカレーター）、スロープ（手摺り）の設置 ・車椅子、ベビーカーの貸出 	B	<p>努力の成果が認められる。開館時間の弾力化については、費用削減との兼ね合いもあり、いまだ不十分である。適切な開館時間の設定について、今後も慎重に検討することが必要であろう。</p>																				

-2 展示や解説パネルを工夫するとともに、音声ガイド等を導入するなど、鑑賞しやすさ、理解のしやすさに配慮する。

入館者を対象とする満足度調査を定期的実施し、入場料金及び開館時間の弾力化などの管理運営の改善に努める。

入館者にとって快適な空間となるよう、利用者ニーズを踏まえてミュージアムショップやレストラン等の充実を図る。

- ・自動体外式除細動器（AED）の設置
- ・盲導犬、介助犬の同伴による観覧
- ・多言語による館案内表示
- ・多言語による館内リーフレット、ミュージアムカレンダー等の配布
- ・東京都が実施する「ウェルカムカード」に参加し、外国人来館者の常設展観覧料金を割引

また、国立西洋美術館は、貸出用杖（10本）やホームページに視覚障害者向けの音声案内機能を整備し、国立国際美術館は、貸出用拡大鏡（16個）、授乳室・キッズルーム（B1）を、国立新美術館は、授乳室（B1）、点字ブロック（正門から正面入口、地下鉄口から西入口（インターホン設置））、点字表示（エレベータ内）、補聴器等への磁気誘導無線システムを講堂に設置（専用受信機10台）、ホワイエ等の館内ディスプレイに展覧会や講演会の情報表示等を行っている。

展示、解説の工夫と音声ガイドの導入

各館とも次のような対応を実施している。

- ・共催展における音声ガイドの導入
- ・館内リーフレット、フロアプラン、ミュージアムカレンダー等の配布

また、東京国立近代美術館は、本館常設展の音声ガイドの平成19年度導入に向け、作品選定、作品解説の作成及び音声ガイド機器の選定を行った。

国立西洋美術館は、「ジュニア・パスポート」の配布、常設展展示作品の解説を掲載したリーフレットの販売（「松方コレクションリーフレット」価格：100円）、「ウェルカム美術館プロジェクト」の立ち上げ、音声映像ガイド・オンデマンド印刷実験（春・秋）を実施した。

国立国際美術館は、作品紹介キャプションを縦型に拡大し、活字をより見易くした。

国立新美術館は、「20世紀美術探検 - アーティストたちの三つの冒険物語」展鑑賞ガイドブック「アートのとびら（日英併記）」の配布を行った。

入場料金、開館時間等の弾力化

文化の日（11月3日）及び国際博物館の日（5月18日）の観覧料の無料化を実施するとともに、開館時間等については、夜間開館の実施、年始やゴールデンウィーク等休館日の臨時開館を実施した。

なお、各館における取組みは以下のとおりである。

東京国立近代美術館は、本館・工芸館の所蔵作品展及びフィルムセンターの展示室を何度でも観覧できるMOMATパスポートの発売を開始（1年間有効）した。また、藤田嗣治展では、多数の入館者に対応するため、金曜日に加え木・土曜日にも夜間開館を実施し、年始は1月2日（「美術館へ行こう～A Day in the Museum」の実施）から開館した。

フィルムセンターは、企画ごとに上映回数を増加している。全会期1日3回の上映を行ったのは、企画上映「シナリオ作家 新藤兼人」、共催上映「第7回東京フィルメックス 特集上映 岡本喜八 日本映画のダンディズム」、土・日・祝日のみ3回上映したのは、企画上映「日本映画史横断 日活アクション映画の世界」、共催上映「ロシア文化フェスティバル2006 IN JAPAN ロシア・ソビエト映画祭」、企画上映「没後50年 溝口健二再発見」である。

京都国立近代美術館は、京都市駐車場公社との連携により駐車場料金を割引するとともに、「みやこめっせ10周年（きもの、ゆかた着用）」、「関西文化の日」に参加し、こ

また、国立新美術館のカフェテリア設置は新しい取組であり、その有効な活用を図るよう運用の工夫を期待する。更に他の美術館においても同様の取組を行うよう望みたい。

レクシオン・ギャラリーの無料観覧日を実施した。

国立西洋美術館は、春の企画展の初日から秋の企画展最終日まで午後5時の閉館時間を5時30分まで延長し、8月のお盆期間中の休館日を臨時開館、年始は1月2日（「美術館へ行こう～A Day in the Museum」の実施）から開館した。さらに、常設展の毎月第2、第4土曜日の無料観覧日の実施、自主企画展「イタリヤ・ルネサンスの版画 チュウリヒ工科大学版画素描館の所蔵作品による」で前売券を販売、クレジットカードによる観覧券販売の実施、共催展では有効期限付きの無料観覧券を発行し混雑を緩和、本館1階（常設展出口付近）に展覧会の図録等を閲覧できる資料コーナーには、ル・コルビュジエ設計の建物との一体感を図るため、同建築家のオリジナル作品を複製した椅子等の什器を設置、前庭・本館1階のレストラン、ミュージアムショップ、資料コーナーがあるスペースはフリーゾーンとして無料開放、「ミュージアム・クリスマス in 国立西洋美術館」で、前庭のイルミネーション装飾、クリスマスツリーの設置と開館時間の延長を実施（期間：平成18年12月1日～平成19年1月8日。ただし、12月28日～1月1日を除く）した。

国立国際美術館は、「関西文化の日」に無料観覧日を実施、特別展・共催展開催期間中の金曜日の閉館時間を午後7時まで延長した。

国立新美術館は、「黒川紀章展」及び「文化庁メディア芸術祭10周年記念展」の観覧料を共催者の協力により無料とするとともに、ホームページ、チラシ、携帯QRコード、ポストカード、同時開催企画展のチケット同時購入割引等を実施した。

また、開館記念展中の平成19年1月23日の休館日を開館した。その他の入館者サービスとして、「20世紀美術探検」初日に記念品プレゼント（300人）、「異邦人たちのバリ」日時指定券、先行ペア券の発売、「異邦人（エトランジェ）たちのバリ」を後援した東京日仏学院との連携による「初心者のためのフランス語講座」の実施（3月4日と11日に計5回）、「黒川紀章展」キーワードライブの実施（13回）、「文化庁メディア芸術祭10周年企画展」屋外展示場にて、ランドウォーカー（搭乗型2足歩行ロボット）の展示・実演（実演日数：4日間）、同展示室内に特設シアターを設け、歴代受賞作品等を上映（59回）、同展ライブ等イベントの実施（3日間）、団体バスの受入（118団体/133台/4,505人）を行った。

キャンパスメンバーズ制度の実施

平成18年12月より、国立美術館5館の事業として、大学、短期大学、高等専門学校、専修学校等の学校を対象とした会員制度「国立美術館キャンパスメンバーズ」を発足、メンバーの募集を開始した。

本制度はメンバーとなった学校等の学生や教職員に、常設展の無料観覧、企画展の割引観覧等の特典を付与することで、学校教育における美術館の有効活用を促進すること、学生や教職員の美術に親しむ機会をより豊かにすることを目的とした制度である。

ミュージアムショップ、レストラン等の充実

ミュージアムショップについては、所蔵作品に関連する書籍等に加え、東京国立近代美術館工芸館の「ジュエリーの今：変貌のオブジェ」展出品作家の作品など、展覧会に関連した商品を販売するとともに、国立西洋美術館の「睡蓮」「陽を浴びるポプラ並木」のジャカードタオルや、国立新美術館のシンボルマークを使った商品など、オリジナルグッズの開発に努めた。

また、レストランについては、季節や展覧会に応じたメニューを用意するとともに、美術館の閉館後も営業を行うなど、入館者サービスの向上に努めた。

<p>(7) 国立新美術館の開館 我が国の美術創造活動の活性化を推進するため「国立新美術館」を平成19年1月に開館し、これに向けた体制整備、展示等の実施準備を進める。</p>	<p>国立新美術館の開館 【定性的に評価】</p>	<p>(7) 国立新美術館の開館 当館の開館に向け、主に竣工から開館までの間、以下の準備、活動等を実施した。</p> <table border="0"> <tr> <td>平成18年</td> <td>5月31日</td> <td>竣工(文化庁、文部科学省))</td> </tr> <tr> <td></td> <td>6月14日</td> <td>竣工式(文化庁)</td> </tr> <tr> <td></td> <td>7月1日</td> <td>機関設置、林田英樹館長就任</td> </tr> <tr> <td></td> <td>7月4日</td> <td>館長就任記者会見及び開館日の公表等</td> </tr> <tr> <td></td> <td>8~11月</td> <td>公募団体見学会の開催</td> </tr> <tr> <td></td> <td>9月13日</td> <td>評議員会(平成18年度第1回)開催</td> </tr> <tr> <td></td> <td>9月14日</td> <td>開館記念展他展覧会記者会見</td> </tr> <tr> <td></td> <td>9月15日</td> <td>建物御披露目会開催</td> </tr> <tr> <td></td> <td>9月29~30日</td> <td>日豪アート交流フォーラム開催</td> </tr> <tr> <td>10月</td> <td>13・15・19・21日</td> <td>建築ツアー実施</td> </tr> <tr> <td></td> <td>10月26~27日</td> <td>建築ツアー抽選もれ対象者建物見学会開催</td> </tr> <tr> <td></td> <td>11月30日</td> <td>オペラコンサート2006開催</td> </tr> <tr> <td></td> <td>12月6日</td> <td>モネ展記者会見</td> </tr> <tr> <td></td> <td>12月16日</td> <td>色で結ぶ美術と科学-公開シンポジウム開催</td> </tr> <tr> <td></td> <td>12月24日</td> <td>クリスマス混声合唱コンサート開催</td> </tr> <tr> <td>平成19年</td> <td>1月20日</td> <td>開館式典、開館記念展内覧会の開催</td> </tr> <tr> <td></td> <td>1月21日</td> <td>開館オープニングセレモニー実施</td> </tr> </table> <p>また、広報活動の一環として、自動車新車発表会への会場貸出(有料)、雑誌等のスチール撮影許可(有料)や多数の取材、記事掲載への対応、各種団体からの建物視察・見学対応、周知ポスター等の印刷物の作成・配布、ホームページのリニューアルなど、館の周知活動に努めた。</p> <p>このほか、レストラン、ミュージアムショップの業者の選定や施設管理・受付・ライブラリーなどの業務委託の実施と、企画面を補助する事務・研究補佐員の採用による体制整備など開館準備に努めた。</p>	平成18年	5月31日	竣工(文化庁、文部科学省))		6月14日	竣工式(文化庁)		7月1日	機関設置、林田英樹館長就任		7月4日	館長就任記者会見及び開館日の公表等		8~11月	公募団体見学会の開催		9月13日	評議員会(平成18年度第1回)開催		9月14日	開館記念展他展覧会記者会見		9月15日	建物御披露目会開催		9月29~30日	日豪アート交流フォーラム開催	10月	13・15・19・21日	建築ツアー実施		10月26~27日	建築ツアー抽選もれ対象者建物見学会開催		11月30日	オペラコンサート2006開催		12月6日	モネ展記者会見		12月16日	色で結ぶ美術と科学-公開シンポジウム開催		12月24日	クリスマス混声合唱コンサート開催	平成19年	1月20日	開館式典、開館記念展内覧会の開催		1月21日	開館オープニングセレモニー実施	<p>B</p> <p>新しい美術の創造活動等の紹介を中心とする美術館の開館は、大変望ましいことである。18年度はまだ準備段階であるが、開館記念展や施設の利用度等をみると、順調なスタートを切ったように思われる。</p> <p>映像などを関連させた展示等により、若い世代を巻き込んだ文化活動の推進が期待される。</p> <p>公募展を国立美術館で開催するという新しい事業については、どのような評価を行うべきか今後の検討課題であるが、これに適切に対応できるよう、種々のデータを収集するよう求めたい。</p> <p>また、公募展については、国立の機関として観覧空間を提供するにあたって、一部の団体の特権にならないよう、常に検証していくことが求められる。</p>
平成18年	5月31日	竣工(文化庁、文部科学省))																																																				
	6月14日	竣工式(文化庁)																																																				
	7月1日	機関設置、林田英樹館長就任																																																				
	7月4日	館長就任記者会見及び開館日の公表等																																																				
	8~11月	公募団体見学会の開催																																																				
	9月13日	評議員会(平成18年度第1回)開催																																																				
	9月14日	開館記念展他展覧会記者会見																																																				
	9月15日	建物御披露目会開催																																																				
	9月29~30日	日豪アート交流フォーラム開催																																																				
10月	13・15・19・21日	建築ツアー実施																																																				
	10月26~27日	建築ツアー抽選もれ対象者建物見学会開催																																																				
	11月30日	オペラコンサート2006開催																																																				
	12月6日	モネ展記者会見																																																				
	12月16日	色で結ぶ美術と科学-公開シンポジウム開催																																																				
	12月24日	クリスマス混声合唱コンサート開催																																																				
平成19年	1月20日	開館式典、開館記念展内覧会の開催																																																				
	1月21日	開館オープニングセレモニー実施																																																				

2. 我が国の近・現代美術及び海外の美術を体系的・通史的に提示しうるナショナルコレクションの形成・継承

評定 A

中期計画通り、または中期計画を上回って履行し、中期目標に向かって順調、または中期目標を上回るペースで実績を上げている。

評価のポイント

各館の適正かつ客観的な基準のもとで、収集成果をあげている。今後は作品収集にあたっては、法人全体の方針や取組が必要と思われる。

中期計画の各項目	評価項目	評価基準					主な実績及び自己評価	評定	評価委員会によるコメント																																		
		S	A	B	C	F																																					
(1)-1 以下に掲げる各館の収集方針に沿って、体系的・通史的にバランスのとれた所蔵作品の蓄積を図る。 なお、作品の収集にあたっては、その美術史的価値や意義等についての外部有識者の意見等を踏まえ、適宜適切な購入を図る。 また、収集活動を適時適切に行うために、美術作品の動向に関する情報の入手と機運醸成の向上に努める。 (東京国立近代美術館) 近・現代の絵画・水彩・素描、版画、彫刻、写真等の作品、工芸作品、デザイン作品、映画フィルム等を収集する。 美術・工芸に関しては所蔵作品により近代美術全般の歴史的な常設展示が可能となるように、歴史的価値を有する作品・資料を収集する。 また、映画フィルム等については、残存するフィルムの収集に努めるとともに積極的に復元を図る。 (京都国立近代美術館)	収蔵品の収集 【定性的に評価】	(1) 美術作品の収集					A	制約のある状況ながら、適正かつ客観的な基準のもとで、全般的に収集成果をあげていると評価する。 作品収集については、各館の特色がより発揮されてもよいのではないかと、彫刻作品の収集、また現代的関心としてメディアアート領域の収集などの一層の拡充が望まれる。 【各館個別事項】 ・予算の制約がある中で、フィルムセンターの活動は評価できる。特に映画フィルムについては、可能な限り早い収集・保管を行うことが期待される。 ・国立国際美術館のペローネほかの収集を評価する。																																			
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>館名</th> <th>購入点数</th> <th>購入金額 (千円)</th> <th>寄贈点数</th> <th>年度末所蔵作品数</th> <th>年度末寄託品数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京国立近代美術館本館</td> <td>64</td> <td>186,250</td> <td>72</td> <td>9,490</td> <td>231</td> </tr> <tr> <td>東京国立近代美術館工芸館</td> <td>13</td> <td>9,920</td> <td>39</td> <td>2,593</td> <td>128</td> </tr> <tr> <td>京都国立近代美術館</td> <td>126</td> <td>187,060</td> <td>328</td> <td>8,628</td> <td>2,066</td> </tr> <tr> <td>国立西洋美術館</td> <td>64</td> <td>187,298</td> <td>2</td> <td>4,498</td> <td>13</td> </tr> <tr> <td>国立国際美術館</td> <td>51</td> <td>191,845</td> <td>363</td> <td>5,753</td> <td>79</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>318</td> <td>762,373</td> <td>804</td> <td>30,962</td> <td>2,517</td> </tr> </tbody> </table>	館名	購入点数	購入金額 (千円)	寄贈点数			年度末所蔵作品数	年度末寄託品数	東京国立近代美術館本館	64	186,250	72	9,490	231	東京国立近代美術館工芸館	13	9,920	39	2,593	128	京都国立近代美術館	126	187,060	328	8,628	2,066	国立西洋美術館	64	187,298	2	4,498	13	国立国際美術館	51	191,845	363	5,753	79	計	318	762,373
館名	購入点数	購入金額 (千円)	寄贈点数	年度末所蔵作品数	年度末寄託品数																																						
東京国立近代美術館本館	64	186,250	72	9,490	231																																						
東京国立近代美術館工芸館	13	9,920	39	2,593	128																																						
京都国立近代美術館	126	187,060	328	8,628	2,066																																						
国立西洋美術館	64	187,298	2	4,498	13																																						
国立国際美術館	51	191,845	363	5,753	79																																						
計	318	762,373	804	30,962	2,517																																						

近代美術史における重要な作品など、近・現代の美術・工芸・写真・デザイン作品等を収集する。

その際、京都を中心とする関西ないし西日本に重点を置き、地域生に立脚した所蔵作品の充実にも配慮する。

(国立西洋美術館)

中世末期から20世紀初頭に至る西洋美術の流れの概観が可能となるように、松方コレクションを中心とした近代フランス美術の充実、近世ヨーロッパ絵画の充実及びヨーロッパ版画の系統的収集を行う。

(国立国際美術館)

日本美術の発展と世界の美術との関連を明らかにするために、国際的な交流が極めて盛んになった1945年以降の国内外の美術並びに同時代の先駆的な美術を中心に、総合的な影響関係を踏まえつつ、体系的に収集する。

(1)-2 所蔵作品の体系的・通史的なバランスの観点から欠けている部分を中心に、寄贈・寄託品の受け入れを推進するとともに、その積極的活用を図る。

(1)-3 各館の収集方針に則しつつ、緊密な情報交換と連携を図りながら、国立美術館全体のコレクションの充実に努める。

摘要	購入本数	購入金額 (千円)	寄贈本数	年度末 所蔵本数	年度末 寄託品本数
映画フィルム	406	265,056	1,611	48,475	7,048

収集作品の特徴

ア 東京国立近代美術館

【本館】

平成18年度は、1950年代の欧米の代表的作品、戦前の日本の洋画のさらなる充実、メディアアートを含む種々の媒体による中堅作家の作品の3点に重点を置いた収集に努め、近代日本美術史の通史的展観を充実させる、全体としてバランスのとれた収集を行うことができた。

については、数年間にわたる調査と交渉の結果、ジャン・デュビュッフェの中期の代表的作品とジョゼフ・コーネルの50年代の優品を購入した。デュビュッフェについては、本部に留保された予算により購入が可能になったものである。

については、藤田嗣治展の出品作から極めて希少な1930年代のブラジル滞在時の代表的作品を購入した。永年かけて築いた遺族との信頼関係の結果と言える。同様に須田国太郎の遺族から3点の寄贈を受け、須田作品のコレクションに厚みを加えることができた。

については、ビデオ映像を用いた塩田千春の作品を購入するとともに、伝統的な日本画の新たな展開を模索する岡村桂三郎、油彩画の新たな可能性を探る活動を続ける小林正人、児玉靖枝らの作品を収蔵し、全体としてバランスのとれた収集活動を行うことができた。写真作品については田村章彦の初期の代表作、阪神淡路の震災を題材とした宮本隆司の近作ほか、日本の写真史を通観するための作品をコレクションに加えた。

【工芸館】

近代工芸全般の歴史的な常設展が可能となることを目指しつつ、特に、戦後の伝統工芸の代表作、中堅作家の代表作などに重点を置いた作品の収集に努めた。

については、陶芸の岡田隆男、三輪壽雪、伊勢崎享、染織の細見華岳らの秀作を収集した。また、石黒宗彦の資料的な価値の高いものを含む作品25点が一括して寄贈されたことにより、コレクションが一層充実した。

については、陶芸の川口淳や三輪和彦、ガラスの石井康台や高嶺貞彦、漆芸の黒澤千春、人形の友永昭三、ジュエリーの山田禮子等、各分野についてバランスのとれた収集ができた。

【フィルムセンター】

映画製作会社に要請している原版の寄贈について、株式会社ワールド映画社等からの手続を完了し、映画史的に貴重なフィルムの寄贈受入により、コレクションに厚みを加えた。また、可燃性フィルムの寄贈受入により、これまで残存が確認されていなかった作品の原版を収蔵した(寄贈された作品418本のうち、91本)

購入については、ブラネット映画資料図書館等が所有する可燃性原版から、不燃化したデューペネガ及びポジプリントを購入した。また、企画上映等のために、未収集のポジプリントやデューペネガを購入したほか、東京フィルメックス実行委員会との共催上映のために英語字幕付フィルムを購入し、国際交流事業にも活用した。

イ 京都国立近代美術館

近代洋画・日本画の優品を購入し、また、須田国太郎の重要作品の寄贈を受け、関西の近代洋

		<p>画を通観する上で、核の一つを確立することができた。立ち後れている現代美術の分野で、有望な若手作家・高嶺格の重要作品「Baby Insa-dong」を購入した。また、世界的版画家・故池田満寿夫の私蔵コレクションの一部の寄贈を受けたが、これは平成19年度に最終的に約900点からなる池田満寿夫全版画コレクションの形成を目指す第一歩となるものである。上野伊三郎・上野リッチ作品資料の寄贈を受けることができ、日本近代建築及びデザイン教育に関する基礎資料を構築することができた。</p> <p>ウ 国立西洋美術館 購入絵画作品のうち、レンブラントに学んだホーファールト・フリントによる初期の物語画は、レンブラントによる受難伝車作との関連が認められる貴重な作例であり、未だレンブラントを収蔵していない当館のオランダ絵画コレクションの重要な位置を占めることとなった。 ジャン＝ヴィクトール・ベルタンによる風景画2点は、すでに収蔵されているロペール、ヴェルネら18世紀後半の古典主義的風景画と、コローなど19世紀の自然主義的風景画との間に位置するもので、今回の購入により18世紀後半から19世紀前半にかけてのフランス風景画の系譜を辿る展示が可能になった。 デンマークの画家ペーター・イルステッドによる一連の作品の収集は、フランス及びイギリスを主とする当館の近代美術コレクションの領域を広げた。</p> <p>エ 国立国際美術館 戦後ヨーロッパを代表するヴォルスの絵画をはじめ、90年代以降活躍著しいベルギーの画家リュック・タイムンスの最近作やイタリアのアルテ・ポーヴェラを代表する彫刻家ジュゼッペ・ペノーネの彫刻等海外の重要な美術動向を把握したほか、宮本隆司の写真、今村源と須田悦弘の斬新な彫刻など日本の現代美術の動向を反映した作品を収集し、当館の収蔵作品の欠落部分を補うことができた。 また、イギリスの彫刻家ヘンリー・ムアの多数の版画作品及び作家・横尾忠則からの多数のポスターの継続的な寄贈を受けた。</p>	
<p>(2)-1 国民共有の貴重な財産である美術作品を永く後世に伝えるとともに、展示等の美術館活動の充実を図る観点から、収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化への対応に積極的に取り組む。</p> <p>(2)-2 環境整備及び管理技術の向上に努めるとともに、展示作品の防災対策の推進・充実を図る。</p>	<p>収蔵品の保管・管理 【定性的に評価】</p>	<p>(2) 収蔵庫等保存施設の狭隘・老朽化への対応と適切な保存環境の整備等 収蔵庫等の狭隘・老朽化への対応</p> <p>ア 東京国立近代美術館 本館、工芸館、フィルムセンターの収蔵スペース確保のため、フィルムセンター相模原分館の保有地等の拡充の検討を行うとともに、キャンパス隣り跡地の利用希望について相模原市に対して要望書を提出した。 本館では、版画作品の収納棚架等により、限られた収納スペースのより効率的な活用を図った。工芸館は、所蔵作品の増加や大型化、企画展開催のための借用作品の増加等により、収蔵庫の狭隘化が年々増じてきているが、各収蔵室の壁面や床面のスペースを効率的に用いることで対処した。</p> <p>イ 京都国立近代美術館 展示及び貸出によって空いた収蔵スペースに他の作品を収蔵する等の工夫を行ったが、収蔵庫のラック増設を行うことができず、対応に苦慮した。</p> <p>ウ 国立西洋美術館 館内に新館空室臨設備改修工事委員会及びワーキンググループを組織し、新館展示室、収蔵庫及び関係室の環境整備に関して検討した。 保存環境の整備等と防災対策の推進・充実</p>	<p>B</p> <p>現状においては、おおむね良好な保存状況にあり、最大限の努力が行われていると思われる。限られた空間の効率的な活用の他に、新たな空間の確保も必要だろう。</p> <p>【各館個別事項】 特に東京国立近代美術館工芸館及び京都国立近代美術館の保管の状況は、限界を超えている。法人として改善することが求められる。</p>

		<p>保存環境の整備については、各館において、美術作品等の種類、保管場所等の状況に応じて温湿度や照明等を適正に管理し、作品の劣化を最小限に止めるよう努めた。</p> <p>また、防災対策の推進・充実については、各館とも緊急時対応の防災マニュアル（地震、火災、停電）の整備・見直し、監視モニター及び警備員による定期巡回等、必要に応じた改善を行った。</p> <p>なお、国立西洋美術館では、彫刻作品の展示における防災対策として、平成17年度から開発実験を始めた彫刻展示台の「免震滑り板」に関する追加実験、総括及び特許申請を行った。この装置については特許を取得し、他館に無償供用を行うことを想定している。また、彫刻の展示方法をより安全にするため、彫刻を台座に取付ける方法を改善し、剛性を高めることにより、彫刻及び台座が免震滑り板の動きと確実に連動するようにした。以上の結果を踏まえて、ロダン彫刻作品8点のための免震滑り板付き台座を新調した。</p>		
<p>(3) 修理・修復に関しては、各館の連携を図りつつ、外部の保存科学の専門家等とも連携して、所蔵作品の保存状況を確実に把握し、修理・修復の計画的実施に努める。</p>	<p>収蔵品の修理 【定性的に評価】</p>	<p>(3) 所蔵作品の修理・修復</p> <p>各館及び外部の専門家等との連携・協力により、所蔵作品の体系的な状態把握に着手し、その過程で、最新の専門的知見と経験から多くを得ることができ、作品の保存状況を把握することができた。なお、紙を支持体とする版画や素描について、緊急度の高い作品から適切な処置を施して修復を行った。</p> <p>また、長年の展示等により、緊急に現状保存修復の検討を要する作品が多い分野については、東京藝術大学美術学部金工科、目白漆芸文化財研究所、「染織の加納」の専門家等と修理・修復の方針について検討を行った。</p> <p>なお、各館における所蔵作品の修理・修復の実施状況は以下のとおりである。</p> <p>ア 東京国立近代美術館 日本画8件、洋画22件、水彩・素描13件、版画1件、彫刻4件、写真21件、金工1件、映画フィルムデジタル復元1作品、不燃化作業96本、映画フィルム洗浄4作品</p> <p>イ 京都国立近代美術館 日本画・洋画4件、素描6件</p> <p>ウ 国立西洋美術館 絵画2件、彫刻8件</p> <p>エ 国立国際美術館 洋画6件、水彩・素描7件、彫刻1件、版画17件</p>	A	<p>緊急度の高い作品から、予算の許すかぎりにおいて努力がなされていると評価できる。</p> <p>各館がより一層連携・協力することが望まれる。また、外部の専門家等との連携・協力も必要であろう。</p> <p>【各館個別事項】 フィルムのデジタル復元は、世界の流れである。予算の制約はあるが、小津、溝口、黒澤など世界の宝と言えるフィルムが日本には存在していることを忘れずに、適切な復元が行われることが望まれる。</p>
<p>(4) 各館の方針に従い、所蔵作品や関連する館外の実物品及び保管・修理に関する調査研究を計画的に行い、その成果を業務に反映させる。なお、実施に当たっては、国内外の博物館・美術館等及び大学等の機関とも連携を図るものとする。</p>	<p>収集・保管のための調査研究 【定性的に評価】</p>	<p>(4) 美術作品の保管・修理等に関する調査研究</p> <p>各館における調査研究の実施状況は、以下のとおりである。</p> <p>ア 東京国立近代美術館 【本館】 (ア) 所蔵作品に関する調査研究 ・科学研究費補助金「戦後の日本における芸術とテクノロジー」(神奈川県立近代美術館、筑波大学との共同研究) ・メディアアートの収集と展示についての基本方針の検討(ニューヨーク近代美術館等との共同研究) (イ) 保管・修理に関する調査研究 ・日本画作品の虫害についての調査(東京文化財研究所との共同調査) ・日本画作品に用いられた銀箔の変質に関する調査(東京文化財研究所との共同調査) (ウ) 所蔵作品や関連する館外の実物品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館種別への反映</p>	A	<p>各館とも所蔵作品の保存・修復に関する調査研究は外部の専門家・専門機関との連携・協力のもとに行われており、特にフィルムについては、良い結果が得られていると思われる。保存分野の専門家の配置については、法人全体としての工夫を期待したい。</p> <p>【各館個別事項】 いまだ所在不明なフィルムについて、更に所在調査を行うことが期待される。</p>

・虫害についての研究の結果、簡易脱酸素処理システムを導入し、日常の作品保守業務に活用した。

・メディアアートについての収集方針の研究を今年度の作品収集活動に反映させた。

【工芸館】

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

・染織の稲垣念次郎作品について、専門技術者と調査研究を行い、保存修復計画を策定した。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

・漆芸古美術資料及び松田権六作品の調査研究（石川県立美術館やMOA美術館、東京国立博物館、東京大学考古学研究室、目白漆芸文化財研究所との共同研究）

【フィルムセンター】

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

・新藤兼人脚本作品に関する調査研究

・フランス古典映画に関する調査研究

・ロシア・ソビエト映画に関する調査研究

・日活アクション映画に関する調査研究

・オーストラリア関連映画に関する調査研究

・溝口健二監督作品に関する調査研究

・岡本喜八監督作品に関する調査研究

・日本の歌謡・ミュージカル映画に関する調査研究

・日本の歴史的な撮影監督に関する調査研究

・水谷浩美術監督作品に関する調査研究

・市川右太衛門主演作品に関する調査研究

(イ) 保管・修理に関する調査研究

国内外の博物館・美術館及び大学等の機関と連携した調査研究を以下のとおり実施した。

・フィルムの目縮みの復元に関する研究

・デジタル技術を用いた映画フィルムの修復に関する調査研究

・可燃性フィルムの保存・修復・国際輸送に関する調査研究

・小型映画の収集・保存に関する調査研究

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

・フィルムセンターにおける上映企画に反映された。

・劣化フィルムの復元作業に反映された。

・デジタル復元作業に反映された。

・可燃性フィルムの保存環境及び国外から可燃性フィルムを輸送する際に反映された。

・小型映画の適正な保存・カタログリング方法について検討する際に反映された。

イ 京都国立近代美術館

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

・同志社大学と協力し、新しい視点での所蔵作品研究及び再構成の可能性を研究した。

・京都工芸繊維大学の協力の下に上野伊三郎・上野リッチ作品資料の研究に着手し、日本近代建築史とデザイン教育史の再検証を開始した。

(イ) 保管・修理に関する調査研究

・写真の保存・管理の専門家を客員研究員として採用し、写真作品の保管・管理態勢の再構築を開始した。平成18年度は東京都写真美術館の実情を調査し、現場活動に即した責

重なる情報と示唆を得ることができた。

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映

- ・同志社大学と共同し、新しい視点による所蔵作品の研究と再構成の可能性を、コレクション・ギャラリーの展示として実現した。
- ・日本画の修復保存に関するワークショップを開催し、専門家のみならず一般美術愛好家にもこの分野の重要性を訴える活動を行った。

ウ 国立西洋美術館

(ア) 所蔵作品に関する調査研究

- ・所蔵絵画作品、ヴァザーリ《ゲッセマネの祈り》の来歴に関する調査研究(フィレンツェ特殊美術館監督局との連携)
- ・所蔵絵画作品、グエルチーノ《ゴリアテの頭をもつダヴィデ》の来歴に関する調査研究(パルマ・ピアチェンツァ歴史美術民俗文化財監督局、フィレンツェ特殊美術館監督局との連携)
- ・所蔵絵画作品、イタリア派《ヴィーナスとクピド》の作者及び来歴に関する調査研究(パルマ・ピアチェンツァ歴史美術民俗文化財監督局との連携)
- ・所蔵ロダン作品及びバリエール絵画作品に関する調査研究(フランス美術館局、オルセー美術館、ロダン美術館との連携)
- ・所蔵イタリア・ルネサンス版画に関する調査研究(チューリヒ工科大学版画素描館との連携)
- ・長期貸与作品、ブラングイン版画に関する調査研究(東京国立博物館との連携)
- ・寄託絵画作品、ムンク《坑夫たち》に関する調査研究(オスロ市立ムンク美術館との連携)

(イ) 保存・修復に関する調査研究

- ・《世獄の門》免震化(J・ポール・ゲッティ美術館主催国際シンポジウムにおける招待発表)

(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保存・修復に関する調査研究成果の美術館活動への反映

- ・所蔵絵画作品、ヴァザーリ《ゲッセマネの祈り》の来歴に関する調査研究：研究紀要第11号掲載
- ・所蔵絵画作品、イタリア派《ヴィーナスとクピド》の作者及び来歴に関する調査研究：来年度企画展「パルマ イタリア美術、もう一つの都」展示公開及びカタログ掲載
- ・所蔵ロダン作品及びバリエール絵画作品に関する調査研究：企画展「ロダンとバリエール(当館閉館後オルセー美術館に巡回)展示公開及びカタログ掲載
- ・所蔵イタリア・ルネサンス版画に関する調査研究：企画展「イタリア・ルネサンスの版画」展示公開及びカタログ掲載
- ・平成14-18年度前期新収蔵版画作品に関する調査研究：平成14-18年度新収蔵版画作品展」展示公開
- ・長期貸与作品、ブラングイン版画に関する調査研究：版画作品展「フランク・ブラングイン版画展」展示公開及びリーフレット
- ・寄託絵画作品、ムンク《坑夫たち》に関する調査研究：来年度企画展「ムンク展」展示公開及びカタログ掲載
- ・免震滑り板付き彫刻台に関する調査研究：常設展ロダン作品展示公開

		<p>エ 国立国際美術館</p> <p>(ア) 所蔵作品に関する調査研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コレクションの在り方の詳細な総合比較を実施(連携機関: 大阪市立近代美術館建設準備室, サントリーミュージアム[天保山]) <p>(イ) 保管・修理に関する調査研究</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保管・修理に関する調査研究を実施(連携機関: 大阪市立近代美術館建設準備室, サントリーミュージアム[天保山]) <p>(ウ) 所蔵作品や関連する館外の美術品及び保管・修理に関する調査研究成果の美術館活動への反映</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コレクションの在り方を詳細に総合比較するとともに保管・修理に関する調査研究を実施したことにより, 「夢の美術館: 大阪コレクションズ」を開催した。(連携機関: 大阪市立近代美術館建設準備室, サントリーミュージアム[天保山]) 		
--	--	---	--	--

3. 我が国における美術館のナショナルセンターとして美術館活動全体の活性化に寄与

評定 B

中期計画通りに履行しているとは言えない面もあるが、工夫や努力によって、中期目標を達しうると判断される。

評価のポイント

ナショナルセンターとして、我が国の美術館全体の状況を勘案しつつ、人材育成、知的財産権の課題の解決等について、美術館界のモデルとなることが望まれる。フィルムセンターの独立についても、検討を進めていくべきであろう。

中期計画の各項目	評価項目	評価基準					主な実績及び自己評価	評定	評価委員会によるコメント																																																			
		S	A	B	C	F																																																						
(1) 所蔵作品等に関する調査研究の成果を研究紀要、学術雑誌、展覧会に関する刊行物、学会及びインターネット等を活用して広く発信する。また、各種セミナー・シンポジウムを開催する。	ナショナルセンターとしての国内外の美術館等との連携・協力【定性的に評価】	(1) 所蔵作品等に関する調査研究成果の発信 研究紀要、学術雑誌、展覧会刊行物、学会等での発信					B	国内外との連携はおおむね評価できる。 ナショナルセンターとして、美術作品に関する著作権問題、展覧会としての知的財産問題の解決等に関し、公私立美術館にモデルケースを提示することが望まれる。 【各館個別事項】 ・東京国立近代美術館の「揺らぐ近代：日本画と洋画のはざまに」展、京都国立近代美術館の3つのシンポジウムと講演、東京国立近代美術館のパリにおける「アジアのキュビズム」展の開催は、特に評価したい。 ・特に国立西洋美術館の「ロダンとカリエール」展は、パリのロダン美術館やオルセー美術館との共同研究とパリ（オルセー美術館）での巡回展などの点で際立った成果を上げたものの一つである。 ・フィルムセンターについては、海外との連携による情報収集を緊密にして、海外に																																																				
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>館名</th> <th>展覧会図録</th> <th>研究紀要</th> <th>館ニュース</th> <th>所蔵品目録</th> <th>パンフレット・ガイド等</th> <th>その他</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京国立近代美術館本館</td> <td>7</td> <td rowspan="3">1</td> <td rowspan="3">6</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>東京国立近代美術館工芸館</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>2</td> </tr> <tr> <td>東京国立近代美術館フィルムセンター</td> <td>1</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>10</td> </tr> <tr> <td>京都国立近代美術館</td> <td>7</td> <td>0</td> <td>5</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>国立西洋美術館</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>4</td> <td>0</td> <td>4</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>国立国際美術館</td> <td>6</td> <td>0</td> <td>6</td> <td>2</td> <td>3</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>国立新美術館</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>31</td> <td>2</td> <td>29</td> <td>3</td> <td>17</td> <td>13</td> </tr> </tbody> </table>	館名	展覧会図録	研究紀要	館ニュース			所蔵品目録	パンフレット・ガイド等	その他	東京国立近代美術館本館	7	1	6	1	6	1	東京国立近代美術館工芸館	5	0	2	2	東京国立近代美術館フィルムセンター	1	6	0	1	10	京都国立近代美術館	7	0	5	0	0	0	国立西洋美術館	3	1	4	0	4	0	国立国際美術館	6	0	6	2	3	0	国立新美術館	2	0	2	0	1	0	計	31	2
館名	展覧会図録	研究紀要	館ニュース	所蔵品目録	パンフレット・ガイド等	その他																																																						
東京国立近代美術館本館	7	1	6	1	6	1																																																						
東京国立近代美術館工芸館	5			0	2	2																																																						
東京国立近代美術館フィルムセンター	1			6	0	1	10																																																					
京都国立近代美術館	7	0	5	0	0	0																																																						
国立西洋美術館	3	1	4	0	4	0																																																						
国立国際美術館	6	0	6	2	3	0																																																						
国立新美術館	2	0	2	0	1	0																																																						
計	31	2	29	3	17	13																																																						

注1 「パンフレット・ガイド等」には、小企画展の内容や所蔵作品の解説を掲載したパンフレット、子ども向けの鑑賞ガイド等が含まれる。
注2 「その他」には、科学研究費補助金研究成果報告書（東近美本館）、鑑賞教育プログラム事例報告集（工芸館）、NFCカレンダー（フィルム）等が含まれる。

ア 館の刊行物による研究成果の発信

各館において、展覧会図録（計31冊）、研究紀要（計2冊）館ニュース（計6種、29冊発行）、所蔵品目録（計3冊）等の刊行物により、研究成果を発信した。

イ 館外の学術雑誌、学会等における調査研究成果の発信

（ア）東京国立近代美術館

A 東洋陶磁学会東日本研究会

・平成18年9月2日 東京国立博物館資料館セミナー室

発表：「イギリスの現代工芸（在外研修報告）唐澤昌宏（東京国立近代美術館工芸課主任研究員）

・富本憲吉の初期色絵作品と大原孫三郎の後援について」三上美和（東京国立近代美術館工芸課客員研究員）

聴講者数：32名

B 平成19年3月18日 東京国立近代美術館講堂

発表：岡部隆男の陶芸」唐澤昌宏（東京国立近代美術館工芸課主任研究員）

「初期ルネサンスの鋪床タイル」宮永郁恵（東京国立近代美術館工芸課インターン）

聴講者数：72名

（イ）国立西洋美術館

A 論文・複製版画と批評-ジュリオ・サヌート《アポロとマルシユアス》の場合-」、『西洋美術研究』No.12, p. 213-224・「国立西洋美術館におけるコレクション・マネジメント・システムの構築」『アート・ドキュメンテーション研究』Vol.14（2007年3月）

B 学会等での発表

・Getty国際シンポジウム “Seismic Isolation of The Gate of Hell” Colloquium, Seismic Mitigation for Museum Collections, 2006 J. Paul Getty Center, Los Angeles

・アート・ドキュメンテーション学会年次大会口頭発表（2006年4月）

（ウ）国立国際美術館

・「美術と文化」-美術館・博物館の連携と異文化交流-

・日本のアンフォルメルについて・ポーランドの現代美術-ミロスワフ・パウカを中心に

ウ インターネットによる調査研究成果の発信

（ア）京都国立近代美術館

・揺らく近代」展に関連した電子メール討論会の開催。

・コレクション・ギャラリー小企画展にあわせ、小論文の形で公表

（イ）国立西洋美術館

平成19年7月から更新予定のホームページに、当館の美術作品データ及び年報を掲載する

存在する日本映画の収集などに一層努力することが期待される。

・国立西洋美術館については、諸事情を勘案しつつ、今後の貸出の拡大への取組を期待したい。

ための準備を行った。

(ウ) 国立新美術館

美術情報の収集・提供に関する調査研究を通じ、インターネットによる展覧会情報システム「アートコモンズ」を開設し、国内美術館等の展覧会情報を提供開始。

所蔵作品等に関するセミナー・シンポジウムの開催

ア 東京国立近代美術館

【本館・工芸館】

(ア) 「漆芸界の巨匠 人間国宝 松田権六の世界」展シンポジウム

日時：平成19年1月20日(土) 午後2時～午後4時

内容：基礎講演及びパネリストによる討議(主任研究員 諸山正則)

聴講者数：163名

(イ) 「漆芸界の巨匠 人間国宝 松田権六の世界」展研究会

日時：平成19年1月22日(月) 午後2時～午後4時30分

内容：「松田芸術の源泉と構成部分」(工芸課長 金子賢治), 「松田権六の制作と古典」(研究員 北村仁美)他による研究発表。

聴講者数：72名(ウ) 漆芸界の巨匠 人間国宝 松田権六の世界」展 研究会

日時：平成19年2月19日(月) 午後2時～午後4時

内容：松田権六作品特別観覧及び作品解説。

参加者数：20名

【フィルムセンター】

「没後50年 溝口健二国際シンポジウム MIZOGUCHI 2006」共催：朝日新聞社、国際交流基金、角川ヘラルド映画

日時：平成18年8月24日(木) 午後12時～午後8時30分

場所：有楽町朝日ホール

聴講者数：650名

イ 京都国立近代美術館

(ア) 「パリ・1920年代・藤田嗣治」(国際シンポジウム)

日時：平成18年6月10日(土)

(イ) 「富本憲吉と戦前ポスター・1930年代日本の基層文化 - 試みとしての 伝統」

日時：平成18年8月19日(土)

講師：館長 岩城見一、主任研究員 松原龍一

(ウ) 揺らく近代 日本画と洋画のはざまに

日時：平成19年2月25日(日)

講師：館長 岩城見一、主任研究員 山野英嗣

ウ 国立西洋美術館美術史学会東支部例会(担当：主任研究員 田中正之)

日時：平成19年3月24日(土)

於：国立西洋美術館 講堂

招待研究発表「オーガスタス・ウォラストン・フランク、アーネスト・メイソン・サトウと蜷川式胤 英国大英博物館のための日本漆物の蒐集(1875～1880年)」(セインズベリー日本芸術研究所 ニコル・クーリッジ・ルマニエール)

- (2)-1 国内外の優れた研究者を招聘しシンポジウムを開催するなど、美術館種加に対する示唆が得られるよう努めるとともに、人的ネットワークの構築を推進する。
- (2)-2 海外の美術館において、我が国の優れた作家や美術作品を世界に広く紹介する展覧会が活発に行われるよう、海外の美術館との連携・協力に積極的に取り組む。

エ 国立国際美術館

(ア) 館長と語る

日時：平成19年2月24日(土) 99人

講師：館長 建畠哲

(イ) 「夢の美術館 大阪コレクションズ」特別セミナー

日時：平成19年3月21日(水) 24人

講師：菅谷富夫(大阪市立近大美術館設立準備室学芸員), 島学芸課長

(2) 国内外の美術館等との連携

シンポジウムの開催等による国内外の優れた研究者等との人的ネットワークの構築

ア 東京国立近代美術館

【本館・工芸館】

近・現代美術史の展望や見直しに関わるテーマのもとに開催される企画展において、館外の研究者や学会等と連携してシンポジウム等を開催することにより、調査研究の進展及び討議の場の設定に寄与するよう努めた。なお、その際は一般の美術愛好家にも開かれたものであることを目指した。

工芸館では、世界における日本工芸の独自性を捉えるため、国内外の美術館等の研究者とさまざまな角度から交流を図った。その成果は学会、研究会で発表し、世界と日本の工芸研究の進展に寄与するよう努めるとともに、日英の共同展覧会の計画推進に役立った。

(ア) 揺らく近代：日本画と洋画のはざまに」展 公開討論会 後援：明治美術学会

「日本画と洋画のはざまに、なにがあったのか」

日時：平成18年12月2日(土) 午後2時～4時

場所：本館講堂

パネリスト：児島薫(実践女子大学)、佐藤道信(東京藝術大学)、田中正史(小樽放庵記念日光美術館) 古田亮(司会、東京藝術大学・当館客員研究員)

聴講者数：171名

(イ) 「わざの美；伝統工芸50年」に関して、大英博物館担当者と研究会を実施。

第1回：ティモシー・クラーク(大英博物館日本美術担当)

テーマ：日本の現代工芸とヨーロッパ現代工芸の現状について

日時：平成18年10月11日

第2回：ニコル・クーリッジ・ルマニエル(セインズベリー日本藝術研究所長、大英博物館「わざの美；伝統工芸50年」担当ゲスト・キュレーター、東京大学客員教授として日本滞在中)

テーマ：日本の「工芸」とヨーロッパの「craft」の歴史と概念の共通性と違いについて

日時：平成19年3月26日

(ウ) ジュエリーの今：変貌のオブジェ」展 講演会

「A Sense of Place」

日時：平成18年11月18日(土) 午後3時30分～午後4時

場所：工芸館展示室

講師：サイモン・フレーザー

(Central Saint Martins College of Art & Design ジュエリーコース担当主任)

聴講者数：66名

【フィルムセンター】

我が国唯一の国立フィルム・アーカイブとして、また、映画文化の普及・振興の拠点と

して、シンポジウム、講演会等の開催を通じて、国内外フィルム・アーカイブや同種研究機関等の研究者との連携を推進した。

(ア) 国内外の優れた研究者を招聘、シンポジウム等を開催(再掲)

「没後50年 溝口健二国際シンポジウム MIZOGUCHI 2006」

共催：朝日新聞社、国際交流基金、角川ヘラルド映画

日時：平成18年8月24日(木) 午後12時~午後8時30分

場所：有楽町朝日ホール

監修：蓮實重彦(映画評論家)、山根貞男(映画評論家)

講師等：セッション1 阿部研二(小説家) 井口奈己(監督)、柳町光男(監督)、山崎貴(監督)/セッション2 香川京子(女優) 若尾文子(女優)/セッション3 田中徳三(監督)/セッション4 ヴィクトル・エリセ(監督)、ジャン・ドゥーシェ(映画評論家)

聴講者数：650名

(イ) 日豪交流年2006 オーストラリア映画祭 第1回 講演会

日時：平成18年10月7日(土) 午後2時~午後4時

場所：フィルムセンター小ホール(地下1階)

講師：クエンティン・ターナー(映画史家)

聴講者数：65人

(ウ) 日豪交流年2006 オーストラリア映画祭 第2回 講演会

日時：平成18年10月14日(土) 午後2時~午後4時

場所：フィルムセンター小ホール(地下1階)

講師：エイドリアン・マーティン(映画史家)

聴講者数：63人

イ 京都国立近代美術館

海外の優れた研究者による講演会等を開催し、美術館活動に対する示唆が得られるよう努めるとともに人的ネットワークの構築を推進した。

(ア) 三つのアジア・ピエンナーレ：シンガポール、上海、光州

講師：シドニー大学 教授 ジョン・クラーク

(イ) 身体と風景 - 大地と空の間

講師：リール大学 助教授 カトリーヌ・グラー

(ウ) 醜と排除の感性論(3回)

講師：関西大学文学部助教授 若林 雅哉、関西大学文学部非常勤講師 石田美紀/京都大学大学院人間・環境学研究科教授 篠原資明/神戸大学大学院人文学研究科助教授 前川 修/京都精華大学デザイン学部専任講師 佐藤守弘/神戸大学大学院人文学研究科教授 長野順子

ウ 国立西洋美術館

国内唯一の西洋美術専門の国立美術館として、日本における西洋美術研究のセンター的役割を果たすべく、国内外の美術館等の研究機関及び研究者との連携を図り、人的ネットワークの構築に寄与した。

・美術史学会東支部例会(再掲)

(平成19年3月24日(土) 於：国立西洋美術館講堂、担当：主任研究員 田中正之)

エ 国立国際美術館

開催中の展覧会や所蔵作品についての理解を深めるために、優れた研究者を招聘し、講演会等を行った。

- ・椰子とジャガイモ：ジグマー・ポルケの世界」(4月29日)
- ・キッチュの復権から流動的視覚体験へ：90年代 - 00年代具象絵画の変貌」(12月17日)

オ 国立新美術館

(ア) 日豪アートフォーラム

A 日豪美術関係者会議(非公開)平成18年9月29日～30日(34名)

B 日豪アート交流シンポジウム『オーストラリアと日本 - 美術の現在と未来』平成18年9月30日(147人)

(主催) 国立新美術館, アジアリンク, 豪日交流基金, オーストラリア大使館

(協力) 独立行政法人国際交流基金

(イ) 「色で結ぶ美術と科学 - 公開シンポジウム」平成18年12月16日(136人)

(主催) 国立新美術館, 日本色彩学会関東支部

我が国の作家, 美術作品による展覧会開催のための海外の美術館との連携・協力

ア 東京国立近代美術館

【本館】

我が国の作家や美術作品を、展覧会等を通じて海外に紹介するためには、何よりも海外の研究者や関係機関と日常的な交流の実績を積み重ね、近・現代美術に関するテーマや問題意識を共有することが必要であり、あらゆる機会を捉えて、連携・協力の推進に努めた。

国際交流基金主催, 東京国立近代美術館・韓国国立現代美術館・シンガポール美術館協力により, 平成19年5月16日から7月7日までパリの日本文化会館で開催予定の「アジアのキュビズム」展に向けて, 両館と連携しながら, 立案・作品調査・選定等を行った。

【工芸館】

日本の優れた伝統を継承しその芸術を今日に発展させてきた工芸作家及びその作品を広く海外へ紹介する活動を重視し, 海外展開に向けて準備を進めた。

英国の大英博物館, 東京国立近代美術館, 京都国立近代美術館, 社団法人日本工芸会, 及び国際交流基金の主催により, 平成19年7月から10月に大英博物館で開催される「わざの美: 伝統工芸の60年」展で, 伝統工芸作家111人による代表作品112点を紹介する。当館は, 大英博物館やこの事業をサポートするセインズベリー日本藝術研究所と密接に連絡をとり, 他の共催者及び協力の文化庁, 各所蔵家と連携して準備を進めた。

【フィルムセンター】

ドイツ・キネマテーク財団主催による「第57回ベルリン国際映画祭 岡本喜八回顧展」や, チリ動画財団主催による「第5回ラ・セリナ国際無声映画祭」など, 海外の上映会や映画祭等16件に, フィルムセンター所蔵作品計58作品を出品し, 日本映画の紹介に努めた。

イ 京都国立近代美術館

近代日本画の歴史に大きな足跡を残しながら忘れられていた都路華香の正当な再評価を目指した「都路華香展」で, シアトル美術館が所蔵する作品・資料が貴重な役割を果たした。当館とシアトル美術館が協力した調査の過程で, アメリカ側にも都路華香に対する再評価の機運が高まった。

ウ 国立西洋美術館

国内唯一の西洋美術専門の国立美術館として, 我が国における西洋美術研究のセンター的

(3) 国内外の美術館及びフィルム・アーカイブ等と保存・修復に関する情報交換を図りながら、修復・保存活動の充実に寄与する。

役割を果たすべく、国内外の美術館等の研究機関及び研究者との連携を図り、人的ネットワークの構築に寄与した。

(ア)「ロダンとカリエール」展におけるフランス美術館局、オルセー美術館、ロダン美術館との共同研究及びオルセー美術館への巡回に伴う連携

(イ)「ベルギー王立美術館展」及び「イタリア・ルネサンス版画展」における各所蔵館(ベルギー王立美術館、チューリヒ工科大学版画素描館)学芸職員との共同研究

(ウ) エール大学教授ティム・バリンジャー氏による講演会の開催

エ 国立国際美術館

平成20年度、小川信治展開催に向け準備を進めた(ポーランド：フンキエーシトゥッキ)

(3) 国内外の美術館及びフィルム・アーカイブ等との保存・修復に関する情報交換

ア 東京国立近代美術館

国内外の美術館などの研究機関と情報交換を図りながら、修復・保存活動を充実させることを目指し、次のような活動を行った。本館では、東京文化財研究所及び福岡市美術館と虫害予防についての情報交換を行った。

工芸館では、工芸各素材の特色ある保存・修理について関係機関と連携し、緊急性を要する漆芸、染織品の所蔵作品の現状について精査し、修理方針を作成した。

フィルムセンターでは、国際フィルム・アーカイブ連盟の加盟機関等との連携によって、フィルムの所在情報、適正な保存方法や復元技術に関する情報交換を行った。

イ 京都国立近代美術館

・膨大となってきた素描、写真、版画などの美術作品及び美術資料の系統的な再分類・整理と、研究者等への外部公開に向けての態勢の整備を図るとともに、先行他館の施設と経験を調査し、当館に適したシステム構築を目指し、次のような活動を行った。

・写真の保存整理の専門家を客員研究員として採用し、東京都写真美術館などの先行館や外部研究者への調査を行った上で、写真作品保存・整理・公開システムの再構築を開始した。

ウ 国立西洋美術館

保存・修復に関し国内外の美術館との情報交換の推進を図るため、次のような活動を行った。

・J・ポール・ゲッティ美術館主催国際シンポジウムにおいて「《地獄の門》免震化」に関する招待発表を行った。

・シュトゥットガルト州立美術館への作品貸与を機会に、同館への作品貸与期間中の温湿度記録とその分析結果報告書を提供し、保存環境改善に対する提言を行った。

・国内外美術館への作品貸与、使用許可及び来年度巡回展の準備に当たり、関係する美術館のフアシリティ・レポート(施設概要)を審査し、保存環境管理のための要請、提言等を行った。

エ 国立国際美術館

国内外の美術館における保存・修復の現状について、相互の情報交換を図り、同一作家や関連作品についての修復活動の充実を目指し、次のような活動を行った。

・「夢の美術館：大阪コレクションズ」では、大阪市立近代美術館建設準備室とサントリーミュージアム[天保山]のコレクションの状態で当館コレクションの状態とを確認し、相互に保存・修復についての情報交換を行った。

(4) 所蔵作品については、その保存状況を勘案しつつ、国内外の美術館・博物館その他これに類する施設に対し、貸与等を積極的に行う。

(4) 所蔵作品の貸与等

館名	貸出件数	貸出点数	特別観覧件数	特別観覧点数
東京国立近代美術館 本館	73	319	139	320
東京国立近代美術館 工芸館	21	168	37	128
京都国立近代美術館	74	709	68	130
国立西洋美術館	17	20	56	119
国立国際美術館	31	94	18	20
計	216	1,310	318	717

・フィルムセンター

種別	貸出		特別映写観覧		複製利用	
	件数	点数	件数	点数	件数	点数
映画フィルム	58	189	78	193	41	148

種別	貸出		特別観覧	
	件数	点数	件数	点数
映画関係資料	7	44	46	369

・写真作品閲覧制度（プリントスタディ）

摘要	件数	閲覧者数	閲覧作品点数
写真作品	10	27	482

(5)-1 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとして、全国の小・中学校等や公立美術館における教育普及活動の充実に資するため、先導的・先駆的な教材やプログラムの開発を行う。

(5)-2 全国の小・中学校等における鑑賞教育や、全国の美術館における教育普及活動の活性化を図るため、指導にあたる人材の育成を目指した全国レベルの教員、学芸員等の研修を実施する。

ナショナルセンターとしての人材育成
【定性的に評価】

(5) 美術教育の一翼を担うナショナルセンターとしての活動

美術館を活用した鑑賞教育の充実のための指導者研修の実施

平成18年8月7日(月)～9日(水)の3日間、東京国立近代美術館において、131名の参加を得て開催された。この研修では、小・中学校の教員、美術館の学芸員、教育委員会の指導主事が一堂に会し、美術の鑑賞力を高めるための講演（子どもの心と鑑賞、創作的行為としての鑑賞、美術館教育の歴史）、ギャラリートーク（鑑賞授業例の研究）、美術館と学校の連携を念頭においた事例紹介、グループワーク及び発表等が行われた。国立美術館初の試みとなった、この研修では、全国の鑑賞教育の実践例が紹介され、鑑賞教育充実のための、それぞれの役割分担、相互協力について活発な情報交換が行われた。

先駆的・実証的な教材やプログラムの開発

鑑賞教育の教材に関するワーキンググループを設置し、作品解説シート、ティーチャーズガイド、美術工作セットの開発について、検討に着手した。

(6) 美術館活動を担う中核的人材の育成

館名	インターシップ 受入数	博物館実習受入数
東京国立近代美術館	15	27
京都国立近代美術館	5	-
国立西洋美術館	10	-
国立国際美術館	7	-
国立新美術館	10	-
計	47	27

(6) 大学院生等を対象としたインターンシップ等の事業を進め、今後の美術館活動を担う中核的人材を育成する。

(7) 全国の美術館等の運営に対する援助、助言を順次行うとともに、企画展の共同主催やそれに伴う共同研

**(7) 全国の美術館等との連携・人的ネットワークの構築
企画展・上映会等の共同主催と共同研究**

B

努力を評価する。美術を専門とする多様な人材の育成に貢献するとともに、美術館の教育普及活動の一環として美術教育関係者の指導は重要だが、指導の内容については、先行する公私立館と連携し、更に発展させていくことを期待する。

また、法人全体として、研究員（学芸員）の専門性をどのように育成するのか明確にすることが望まれる。特に映像・建築・現代美術等の領域の人材育成、文化的摩擦を克服する国際交流方策の検討が望まれる。

ナショナルセンターとして、インターンシップ制度については、更に本格的な教育プログラムを確立することが急務だろう。

【各館個別事項】

・フィルムセンターにおける、学生への特別教育上映プログラムは、極めて有意義であり、今後の拡充を期待する。

・京都国立近代美術館の「三つのピエンナレ」などの活動を評価する。

究及びその他の研修制度を通じて、関係者の情報交換・人的ネットワークの形成等に努める。

館名	共同主催件数	共同研修件数
東京国立近代美術館	14	20
京都国立近代美術館	8	13
国立西洋美術館	2	3
国立国際美術館	3	6
国立新美術館	1	11
計	26	52

特記事項（共同研究によって特に得られた成果等）

ア 東京国立近代美術館

【本館】

藤田嗣治展、吉原治良展、都路華香展、豊光展など、いずれも長い準備期間をかけた本格的な回顧展では、他館の学芸員と共同して作品、作家の事績、研究史（文献）等の調査に当たったことにより、単館ではなし得ない幅広い成果を挙げることができた。また、「モダン・パラダイス」展や「揺らく近代」展のようにテーマ設定や展示方法などに工夫を要する展覧会に関しては、前者では大原美術館と、後者では京都国立近代美術館との共同研究によって、さまざまな視点からの提案を取りまとめる作業の積み重ねが、展示やカタログの斬新さ等につながった。これらの作業を通じて、人的ネットワークの緊密化が図られたことの成果も大きい。

【工芸館】

松田権六展では、松田自身の作品にとどまらず、石川県立美術館、MOA美術館、目白漆芸文化財研究所との共同研究によって明らかにされた松田が学んだ古美術作品、先達の作品、さらに松田の教えに導かれた後進の作品を展示することで、これまでにない多面的な展示が可能となり、展覧会の内容をより深めることができた。また「三輪壽雪」展では、作家の地元美術館との共同研究により、地の利を生かした詳細な資料集めを行い、資料と作品とが一体となった厚みのある展示内容にすることができた。特に初の回顧展ということもあり、研究者の交流なくしては実現できなかった有意義な共同研究となった。

【フィルムセンター】

- ・オーストラリア映画祭：同国の古典作品の多くを所蔵するオーストラリア国立映画音響保存所と協議し、同国の映画史の流れに基づいた作品選定を行った。
- ・発掘された映画たちin福岡：フィルムセンターで行われた同名企画を踏まえて、福岡市総合図書館との間で、作品の映画史的意義の検討を含めた選定を行った。

イ 京都国立近代美術館

砺波市美術館での京都国立近代美術館所蔵写真作品による展覧会の開催は、開催館学芸員と当該研究員の数ヶ月にわたる集中的研究と共同作業により展覧会構成を行ったものであり、研究者同士の連携と信頼関係を築き上げた。

ウ 国立西洋美術館

国立西洋美術館が企画した、ロタンとカリエール展は、フランスの国立研究者機関との共同研究により国立西洋美術館（東京）で開催の後、展覧会の内容が認められオルセー美術館（パリ）

に巡回した。このことは調査研究及び展覧会開催に関わる国際交流において日本の美術館のイニシアティブを示した画期的事例である。

エ 国立国際美術館

中東欧美術に関する共同研究を実施し、単行本「ポーランド学を学ぶ人のために」(共著)を刊行した。

また、国際美の学芸員からの働きかけによって実現した「大坂コレクションズ」展における共同研究を通じて、他館のコレクションや企画展への取り組み方を参照し交流を深めた。

オ 国立新美術館

「異邦人(エトランジェ)たちのパリ」展では、展示構成、作家・作品調査、図録作成等について、ポンピドー・センター(フランス)と共同で取り組んだ。来年度以降計画している展覧会についても国内外の美術館等と共同で調査研究に取り組んだ。

キュレーター研修

館名	受入人数
東京国立近代美術館	1
京都国立近代美術館	2
国立国際美術館	1
計	4

特記事項

平成18年度から、より多くの公私立美術館の学芸員の参加を得るため、経験年数(おおむね経験年数5年)による資格の緩和、研修期間の柔軟化(2ヶ月間の条件の撤廃)を実施したことにより、研修者数が増加した。

その他

【国立新美術館】

「平成18年度博物館指導者研究協議会(庶務・管理部門)」、(財団法人日本博物館協会)、「平成18年度美術館等運営研究協議会」(文化庁)の開催。

(8)-1 フィルムセンターは我が国の映画文化振興の中核的機関として、国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)の正会員として、引き続き国際的な事業等に取り組む。また「日本映画情報システム」の運営に主体的に関わるとともに「所蔵映画フィルム検索システム」を拡充する等各種情報の収集・発信を行う。さらに、映画関係団体や大学等が行う各種取組について連携・調整の役割を

フィルムセンターの取組状況【定性的に評価】

(8) 我が国の映画文化振興の中核的機関としてのフィルムセンターの活動
国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)の正会員としての活動

2007年4月開催予定のFIAF東京会議については、FIAF事務局(ベルギー)と緊密な連絡をとりつつ、6月の第62回年次会議(サンパウロ)、11月の運営委員会(台北)等で、準備報告を行うとともに、実施内容の検討を重ねた後、専用ニューズレター(英文)を第1号から第3号まで発行した。会議の日程、内容等を具体化し、参加募集を行い、各加盟機関から160余名の出席表明を得た(平成19年3月現在)

日本映画情報システムの運営

平成17年度に公開が始まった文化庁の「日本映画情報システム」については、「日本映画情報システム」調査運営に関する会議(6回)及び文化庁の内部検討会議(月2回程度)に出席

A 適切に課題を解決し、充実した活動を展開したと評価する。国際的な動向を鑑み、フィルムセンターがより機動的かつ柔軟な運営を行えるよう、東京国立近代美術館の一映画部門ではなく、他の国立美術館と並列の独立した機関として機能する方向を検討すべきであろう。

<p>積極的に果たすため、当該団体等との連絡会議を年に2～3回程度主宰する。</p> <p>(8)-2 フィルムセンターが、より機動的かつ柔軟な運営を行うため、東京国立近代美術館の映画部門から、同館、京都国立近代美術館、国立西洋美術館、国立国際美術館等とならぶ独立した一館となることを検討する。</p>		<p>し、情報やノウハウの提供を行い、システムの開発と運営に主体的に関わった。</p> <p>所蔵映画フィルム検索システムの拡充 「所蔵映画フィルム検索システム」については、平成17年度にWeb上で公開を開始し、公開件数は4,300件となった。</p> <p>映画関係団体等との連携 日本映画の海外普及に関する関係者団体による会合の開催 財団法人日本映像国際展興協会の提案を受け、映画祭などにおいて、日本映画の新作、旧作の非営利上映等の普及活動を行っている4団体の間で会合を持ち、各団体の活動内容などの情報交換を行った。</p> <p>フィルムセンターの東京国立近代美術館からの独立の検討 平成18年度は以下のとおり検討を行った。 第1回 4月21日「フィルム・アーカイブとしての機能充実について」 第2回 5月17日「相模原分館の今後について - 収蔵庫問題 - 」 第3回 7月20日「フィルム・アーカイブとしての上映と展示事業の在り方について」 第4回 9月26日「収集・保存事業と上映事業について」 第5回 11月28日「FIAFを中心とした収集・保存及び国際交流について」</p> <p>1 S : 特に優れた実績を上げている。(客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す) 2 F : 評価委員会として業務運営の改善その他の勧告を行う必要がある(客観的基準は事前に設けず、業務改善の勧告が必要と判断された場合に限りFの評定を付す)</p>							
	<p>連絡会議の開催状況</p>	<p>1</p>	<p>2回以上</p>	<p>-</p>	<p>1回</p>	<p>2</p>	<p>実績：5回 (前年度実績： 回)</p>	<p>A</p>	

業務運営の効率化に関する目標を達成するためにとるべき措置

評定 A

中期計画通り、または中期計画を上回って履行し、中期目標に向かって順調、または中期目標を上回るペースで実績を上げている。

評価のポイント

適切に実施されたものと認められる。

中期計画の各項目	評価項目	評価基準					主な実績及び自己評価	評定	評価委員会によるコメント																																								
		S	A	B	C	F																																											
<p>1 職員の意識改革を図るとともに、収蔵品の安全性の確保及び入館者へのサービスの向上を考慮しつつ、運営費交付金を充當して行う事業については、国において実施されている行政コストの効率化を踏まえ、業務の効率化を進め、中期目標の期間中、毎事業年度につき新規に追加される業務、拡充業務分等を除き5年期間中に一般管理費15%以上、業務経費5%以上の業務の効率化を図る。</p> <p>具体的には下記の措置を講ずる。</p> <p>(1) 各美術館の共通的な事務の一元化による業務の効率化</p> <p>(2) 使用資源の削減</p> <ul style="list-style-type: none"> ・省エネルギー（5年計画で1年に1.03%の減少） ・廃棄物減量化（排出量を5年期間中5%減少） ・リサイクルの推進 <p>(3) 施設有効使用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・美術館施設の活用推進 <p>(4) 民間委託の推進</p>	<p>業務の効率化の状況 【定性的に評価】</p>	<p>1 業務の効率化のための取り組み</p> <p>(1) 各美術館の共通的な事務の一元化</p> <p>本部及び東京国立近代美術館では、物品の発注、有期用職員の給与計算、旅費・謝金の支給事務の一元化を図るため、本部の財務係と東京国立近代美術館の経理係及び用度係の3係を改組して本部2係（財務担当及び会計担当）体制とし、東京国立近代美術館の会計事務については、本部の兼任によって処理することとした。</p> <p>京都国立近代美術館では、経理係及び用度・施設係の2係を改組し、1係（会計担当）体制とした。</p> <p>(2) 使用資源の削減</p> <p>省エネルギー（5年計画で1年に1.03%の減少）</p> <p style="text-align: center;">使用量，使用料金の削減割合（対前年度）</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th rowspan="2" style="width: 15%;">館名</th> <th colspan="3" style="width: 30%;">使用量</th> <th colspan="3" style="width: 30%;">使用料金</th> </tr> <tr> <th style="width: 10%;">電気</th> <th style="width: 10%;">ガス</th> <th style="width: 10%;">合計</th> <th style="width: 10%;">電気</th> <th style="width: 10%;">ガス</th> <th style="width: 10%;">合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>東京国立近代美術館本館</td> <td style="text-align: center;">98.3%</td> <td style="text-align: center;">114.7%</td> <td style="text-align: center;">108.5%</td> <td style="text-align: center;">99.3%</td> <td style="text-align: center;">133.8%</td> <td style="text-align: center;">110.0%</td> </tr> <tr> <td>東京国立近代美術館工芸館</td> <td style="text-align: center;">108.7%</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">108.7%</td> <td style="text-align: center;">106.8%</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">106.8%</td> </tr> <tr> <td>東京国立近代美術館フィルムセンター</td> <td style="text-align: center;">96.9%</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">96.9%</td> <td style="text-align: center;">98.2%</td> <td style="text-align: center;">-</td> <td style="text-align: center;">98.2%</td> </tr> <tr> <td>京都国立近代美術館</td> <td style="text-align: center;">99.4%</td> <td style="text-align: center;">89.6%</td> <td style="text-align: center;">94.0%</td> <td style="text-align: center;">98.6%</td> <td style="text-align: center;">105.1%</td> <td style="text-align: center;">100.2%</td> </tr> </tbody> </table>					館名	使用量			使用料金			電気	ガス	合計	電気	ガス	合計	東京国立近代美術館本館	98.3%	114.7%	108.5%	99.3%	133.8%	110.0%	東京国立近代美術館工芸館	108.7%	-	108.7%	106.8%	-	106.8%	東京国立近代美術館フィルムセンター	96.9%	-	96.9%	98.2%	-	98.2%	京都国立近代美術館	99.4%	89.6%	94.0%	98.6%	105.1%	100.2%	A	<p>適切に進捗している。随意契約の見直しについても、平成19年4月より会計規程を改正することとし、着実に進展しているものと考えられる。民間委託のほか、従来通り効率化の努力を続けてほしい。</p> <p>施設の貸出は講堂や小ホールなどに限られているようだが、利用者のニーズに応じ、貸出対象の拡充等の可能性を検討してもよいのではないか。</p>
館名	使用量			使用料金																																													
	電気	ガス	合計	電気	ガス	合計																																											
東京国立近代美術館本館	98.3%	114.7%	108.5%	99.3%	133.8%	110.0%																																											
東京国立近代美術館工芸館	108.7%	-	108.7%	106.8%	-	106.8%																																											
東京国立近代美術館フィルムセンター	96.9%	-	96.9%	98.2%	-	98.2%																																											
京都国立近代美術館	99.4%	89.6%	94.0%	98.6%	105.1%	100.2%																																											

- ・一般管理部門を含めた組織・業務の見直しを行い、民間開放をさらに積極的に進める。
- ・館の広報・普及業務について民間委託を推進する。

(5) 競争入札の推進

- ・契約業者の競争を一層推進することにより、経費の効率化を図る。

2 外部有識者も含めた事業評価を年

1回以上実施し、その結果を組織事務、事業等の改善に反映させる。また、研修等を通じて職員の理解促進、意識や取り組みの改善を図っていく。

3 国立美術館が管理する情報の安全性向上のため、必要な措置をとる。

4 「行政改革の重要方針(平成17年12月24日閣議決定)を踏まえ、人件費については、平成22年度において、平成17年度と比較し、5%以上削減する。ただし、今後の人事院報告を踏まえた給与改定分については削減対象より除く。また、削減対象の「人件費」の範囲は、各年度中に支給した報酬(給与)賞与、その他の手当の合計額とし、退職金、福利厚生費は含まない。

また、民間賃金との地域差、給与カーブのフラット化、勤務実績の給与への反映を内容とする国家公務員の給与構造改革を踏まえて、給与体系の見直しに取り組む。

国立西洋美術館	97.7%	101.1%	99.6%	99.4%	113.8%	103.7%
国立国際美術館	88.0%	-	88.0%	99.1%	-	99.1%
国立新美術館	-	-	-	-	-	-
法人全体	152.1%	176.9%	163.6%	161.1%	260.5%	181.7%
法人全体(新美術館を除く)	96.0%	104.4%	99.9%	99.3%	118.9%	103.4%

- ・国立新美術館は、前年度実績がないため、削減割合を記載していない。
- ・東京国立近代美術館工芸館・フィルムセンター及び国立国際美術館は、ガス設備を設置していない。
- ・使用量の合計は、電気1kwhあたり3.6MJ、ガス1立方メートルあたり41.1MJ(資源エネルギー庁「エネルギー源別標準発熱量表」による。)に換算して合計したものである。

特記事項(増減の理由等)

省エネルギーについては、照明器具の省エネルギー化、空調設定温度の変更(美術作品のない区画について、夏季28℃、冬季20℃)使用していない設備機器類の停止及び職員に対する啓発により、使用エネルギーの削減に努めた。しかし、電気は東京国立近代美術館工芸館で観客数増加に伴い空調に負荷がかかったこと、ガスは東京国立近代美術館及び国立西洋美術館で暖冬の影響により、暖房運転に加えて温度を下げるための冷房運転を行う必要があったため、空調に負荷がかかったことにより、それぞれ使用量が昨年度より増加した。法人全体としては、国立新美術館が開館したことにより、前年度より大幅に増加した。

廃棄物減量化(排出量を5年間で5%減少)

排出量、廃棄料金の削減割合(対前年度比)

館名	排出量			廃棄料金	
	一般廃棄物	産業廃棄物	合計	一般廃棄物	産業廃棄物
東京国立近代美術館本館	80.5%	83.4%	81.2%	80.5%	83.4%
東京国立近代美術館工芸館	94.9%	119.3%	98.7%	94.9%	119.3%
東京国立近代美術館フィルムセンター	45.6%	125.2%	91.9%	47.6%	122.4%
京都国立近代美術館	172.8%	0%	79.4%	-	0%

国立西洋美術館	99.1%	87.9%	95.0%	89.8%	82.9%
国立国際美術館	99.7%	0%	92.3%	100.0%	0%
国立新美術館	-	-	-	-	-
法人全体	122.4%	84.0%	106.5%	102.1%	75.9%
法人全体（新美術館を除く）	103.9%	63.8%	87.3%	80.3%	56.8%

立新美術館は、前年度実績がないため、削減割合を記載していない。

・京都国立近代美術館は、一般廃棄物の処理を清掃業者に一括して委託しており、廃棄料金を算出できない。

特記事項（増減の理由等）

展示会のディスプレイについて、製作段階からの資材使用量削減等により、発生する廃棄物の削減に努めた。また、館内LANによる通知文書の発信及びサーバ保存文書の共同利用によるペーパーレス化に取り組むとともに、古紙の分別回収を進めることにより、廃棄物の削減を図った。しかし、一般廃棄物は京都国立近代美術館の入館者数増により、産業廃棄物は東京国立近代美術館工芸館の倉庫整理や同フィルムセンターからの国立新美術館設立準備室移転に伴う産業廃棄物が発生したため、それぞれ排出量・廃棄料金が増加した。

リサイクルの推進

古紙の再利用、O A 機器等トナーカートリッジのリサイクルによる再生使用を行った。

（3）美術館施設の利用推進

外部への施設の貸出

各館の貸出施設名	貸出日数	貸出可能日数	貸出利用率
東京国立近代美術館本館（講堂）	23日	299日	7.7%
東京国立近代美術館フィルムセンター（小ホール）	14日	187日	7.5%
東京国立近代美術館フィルムセンター（会議室）	40日	220日	18.2%
京都国立近代美術館（講堂）	38日	260日	14.6%
国立西洋美術館（講堂）	21日	312日	6.7%
国立西洋美術館（会議室）	9日	288日	3.1%
国立国際美術館（講堂）	36日	292日	12.3%
国立国際美術館（会議室）	0日	146日	0.0%

計	181日	2,004日	9.0%
---	------	--------	------

- ・国立新美術館は、平成18年度は外部貸出を行っていない。
- ・貸出可能日数は、年末年始休館及び館事業により使用した日数を除いたもの。

特記事項

講堂及び会議室について、館の事業に差し支えない範囲で、外部への貸出を行った。講堂については、利用促進を図るため、館のホームページに利用案内を掲載するとともに、各種団体を訪問して講堂の設備や貸出料金等の説明を行うなどのきめ細やかな対応をした。また、フィルムセンターの小ホールについても、可能な限り外部への貸出を行った。

その他、展示室及びロビーにおいて、コンサート等イベントの開催や一般企業のプレス発表を行った。

(4) 民間委託の推進

一般管理部門を含めた組織・業務の見直しと民間委託の推進

次の外部委託を行い業務の効率化を図った。

- (ア) 会場管理業務、(イ) 設備管理業務、(ウ) 清掃業務、(エ) 保安警備業務、(オ) 機械警備業務、(カ) 収入金等集配業務、(キ) レストラン運営業務、(ク) アートライブラリ運営業務、(ケ) ミュージアムショップ運営業務、(コ) 美術情報システム等運営支援業務、(サ) ホームページサーバ運用管理業務

国立新美術館は、施設管理関係業務（設備管理、保安警備、会場管理業務）を包括的に委託することにより、施設・警備等に係る連絡調整の指示系統の一元化を行い、業務の効率化とともに管理事務の軽減を図った。公募展関係については、バックヤードの管理業務をサポートする業者に対し、トラックの出入管理・展示作業・備品管理等の業務委託を、平成19年3月から実施した。

東京国立近代美術館は、本館・工芸館とフィルムセンターの会場管理業務について個別に委託していたが、平成19年度から一本化し、管理業務の軽減を図ることとした。

国立西洋美術館は、電話交換業務の委託について検討を行い、平成19年度からの実施を決定した。

広報・普及業務の民間委託の推進

(ア) 情報案内業務、(イ) 広報物等発送業務、(ウ) 交通広告等掲載、(エ) ホームページ改訂・更新業務、(オ) インターネット検索サイト、(カ) ラジオCM等を利用した総合的な広報宣伝業務、(キ) 雑誌「ぴあ」広告掲載年間契約及びチケット販売委託、(ク) 講堂音響設備オペレーティング委託を行った。

(5) 競争入札の推進

一般競争入札の実施

館名	一般競争入札件数	一般競争入札の占める割合	総契約件数(百万円以上)
東京国立近代美術館	9件	7.1%	127件
国立西洋美術館	5件	6.6%	76件
国立国際美術館	6件	9.7%	62件
国立新美術館	31件	36.9%	84件
計	56件	13.9%	404件

特記事項

平成18年度から随意契約基準額を500万円に引き下げることにより、一般競争入札の推進を図った。また、更なる推進を図るため、平成19年度から随意契約基準額を引き下げることの規則改正を行った。

国立西洋美術館は、近隣の東京国立博物館・東京藝術大学との連携による物品の共同契約を実施した。

2 事業評価及び職員の研修等

外部有識者による事業評価

ア 本部

独立行政法人国立美術館運営委員会を2回(平成18年7月10日及び平成19年2月26日)開催し、平成17年度事業実績及び第2期中期計画について説明聴取の上、意見交換を行った。また、平成18年度事業の実施状況及び19年度事業計画(案)について説明聴取の上、意見交換を行った。

また、独立行政法人国立美術館外部評価委員会を3回(平成18年4月18日、5月17日及び6月7日)開催し、平成17年度事業実績について説明聴取の上、審議、評価報告書を取りまとめた。

イ 東京国立近代美術館

評議員会(美術・工芸部会)を3回(平成18年7月4日、10月23日及び平成19年2月16日)開催し、平成17年度事業実績、平成18年度事業の実施状況及び平成19年度事業計画(案)について説明聴取の上、意見交換を行った。

また、評議員会(映画部会)を2回(平成18年7月7日及び平成19年2月23日)開催し、平成17年度事業実績、第2期中期計画、平成18年度事業経過報告及び平成19年度事業計画(案)について説明聴取の上、意見交換を行った。

ウ 京都国立近代美術館

評議員会を1回(平成18年7月19日)開催し、平成17年度事業実績及び平成18年度年度計画及び予算について説明聴取の上、意見交換を行った。

エ 国立西洋美術館

評議員会を1回(平成18年7月10日)開催し、平成17年度事業報告並びに平成18年度事業計画について説明聴取の上、意見交換を行った。

オ 国立国際美術館

評議員会を1回(平成19年2月23日)開催し、平成17年度事業の外部評価結果、平成1

8年度事業の実施状況及び平成19年度事業計画について説明聴取の上、意見交換を行った。

カ 国立新美術館

評議員会を2回(平成18年9月13日及び平成19年3月1日)開催し、平成18年度準備状況・今後の予定、平成18年度事業の実施状況及び平成19年度年度計画について説明聴取の上、意見交換を行った。

3 管理情報の安全性向上

個人情報の保護については、個人情報保護に関する説明会への参加や情報漏えいの事例等の通知を行うとともに、個人情報ファイルの保有状況調査の実施等にあわせ、重要書類は鍵のかかる保管庫に納めること、個人情報を取り扱う業務中に離席する際は、当該書類やパソコン画面を他の職員等から見られないような措置を講じること、廃棄する際はシュレッダーにかけることなど、厳格な書類管理の徹底について注意喚起を行った。

また、独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システムへの画像掲載許諾のため、著作権者情報集積を進めるに当たっては、当該個人情報を記録した電子媒体及び紙媒体を、施設保管庫に納めるなど情報管理徹底のための措置を講じた。

個人情報の取り扱いについて、監査責任者による監査を実施した(10月16日)

ウイルス対応ソフトウェアの導入の徹底や最新のプログラムへの更新を随時行うなど、電子メール等による外部からのウイルス進入を回避する安全策を講じた。

情報システムの管理に当たっては、システム担当の新人職員に情報の取り扱いについての研修を実施するとともに、職員に対しては、私物のパソコン等を館内に持ち込ませない、職場のパソコンを自宅に持ち帰らせない、自分用のパソコンを他人に使用させない、パスワードを他人に教えない(知られないようにする)、不審なメールやファイル等は開かないなどの注意喚起を行った。

4 人件費の抑制、給与体系の見直し

人件費決算

決算額 1,016,684千円(対平成17年度比較 100.0%)

- ・人件費は常勤職員を対象とし、退職金、福利厚生費を含まない。
- ・決算額は、新卒給表への切替及び地域手当新設による増減の影響を含む。

特記事項

平成18年度に国立新美術館の定員として新たに1名の増員が認められ増額の要素が発生したが、人事異動に伴う採用者の若年化など人件費の削減を図り、平成17年度に比してほぼ同額に抑制することができた。

給与体系の見直し

国家公務員の給与等を考慮して、平成18年4月から俸給表の水準を全体として平均4.8%引下げるとともに、級の構成の見直し、きめ細かい勤務実績の反映を行うため俸の4分割を行ったほか、調整手当を廃止し、地域手当を新設するなど、国家公務員の給与構造改革を踏まえた給与体系の見直しを行った。

また、国立美術館の職員が行う職務は、国の行政職俸給表(一)又は研究職俸給表の適用を受けるものと同等の職務であるとみなし、給与についても一般職給与法に準拠した給与制度で支給していることを前提に、これらとの比較を行った(独立行政法人の役職員の給与等の水準(平成17年度)平成18年7月28日総務省公表資料を参照。)

ア 一般職給与表の適用を受ける職員の給与水準

<国との比較>

項目	国	国立美術館
平均年齢	40.3歳	40.5歳
学歴（大学卒の割合）	46.1%	60.4%
調整手当支給率 1	39.1%	100%

1 12%・10%の支給地の割合

<他の独立行政法人との比較> 17年度年間給与額

項目	全独立行政法人	国立美術館
給与総額	7,363千円	6,212千円
平均年齢	43.3歳	40.5歳
ラスバイレス指数 2	107.5	98.2

2 国の行政職奉給表（一）適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

イ 研究職奉給表の適用を受ける職員の給与水準

項目	国	国立美術館
平均年齢	43.9歳	42.9歳
学歴（大学卒の割合）	96.4%	98.1%
調整手当支給率 3	39.1%	100%

3 12%・10%の支給地の割合

<他の独立行政法人との比較> 17年度年間給与額

項目	全独立行政法人	国立美術館
給与総額	9,108千円	8,243千円
平均年齢	44.4歳	42.9歳
ラスバイレス指数 4	102.6	95.5

4 国の研究職奉給表適用者の給与を100としたときの給与水準の指数

ウ 常勤が役員の年間報酬

項目	全独立行政法人	国立美術館
法人の長	18,409千円	20,002千円
理事	16,049千円	17,127千円

平成18年度の役職員の報酬・給与等について

実績報告書添付の別紙「独立行政法人国立美術館の役職員の報酬・給与等について」を参照。

- 1 S : 特に優れた実績を上げている。(客観的基準は事前に設けず、法人の業務の特性に応じて評定を付す)
- 2 F : 評価委員会として業務運営の改善その他の勧告を行う必要がある。(客観的基準は事前に設けず、業務改善の勧告が必要と判断された場合に限りFの評定を付す)

一般管理費の削減状況 【参考指標】	平成22年度目標値	一般管理費 750,226千円 削減率 15%以上	実績：一般管理費 815,805千円 削減率 7.57%			
業務経費の削減状況 【参考指標】	平成22年度目標値	業務経費 2,118,708千円 削減率 5%以上	実績：業務経費 2,142,262千円 削減率 3.94%			
省エネルギー化 (対前年度削減率)【定量的に評価】	1	1.03%以上 0.72%以上0.72%未満 1.03%未満	2	実績：対前年度削減率 63.6% (新美術館を除いた場合0.1%)	C	
廃棄物減量化 【参考指標】	平成22年度目標値	138 t	実績：147 t 削減率 6.5% (新美術館を除いた場合12.7%)			
外部評価の開催回数 【定量的に評価】	1	1回以上 -	0回	2	実績：15回	A
人件費の削減状況 【参考指標】	平成22年度目標値	人件費 965,652千円 削減率 5%以上	実績：人件費 1,016,684 千円 削減率 0.0%			

財務・人事・施設整備に関する目標を達成するためにとるべき措置

評定 A

中期計画通り、または中期計画を上回って履行し、中期目標に向かって順調、または中期目標を上回るペースで実績を上げている。

評価のポイント

限られた予算、少ない人員の中で、最大限の努力を行っており、適切に実施されたものと認められる。

中期計画の各項目	評価項目	評価基準					主な実績及び自己評価	評定	評価委員会によるコメント																																																																																
		S	A	B	C	F																																																																																			
予算（人件費の見積もりを含む） 収支計画及び資金計画 収入面に関しては、実績を助案しつつ、外部資金等を積極的に導入することにより、計画的な収支計画による運営を図る。 また、管理業務の効率化を図る観点から、各事業年度において、適切な効率化を見込んだ予算による運営に努める。 1 予算（中期計画の予算） 別紙のとおり 2 収支計画 別紙のとおり 3 資金計画 別紙のとおり	財務の状況 【定性的に評価】	予算（人件費の見積もりを含む）、収支計画及び資金計画等 1 予算（単位：千円）					<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">区分</th> <th style="text-align: center;">計画額</th> <th style="text-align: center;">実績額</th> <th style="text-align: center;">増減額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td colspan="4">収入</td> </tr> <tr> <td>運営費交付金</td> <td style="text-align: right;">6,778,748</td> <td style="text-align: right;">6,778,748</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td>展示事業等収入（注1）</td> <td style="text-align: right;">523,723</td> <td style="text-align: right;">786,365</td> <td style="text-align: right;">262,642</td> </tr> <tr> <td>寄附金収入</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">29,489</td> <td style="text-align: right;">29,489</td> </tr> <tr> <td>施設整備費補助金</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: right;">7,302,471</td> <td style="text-align: right;">7,594,602</td> <td style="text-align: right;">292,131</td> </tr> <tr> <td colspan="4">支出</td> </tr> <tr> <td>運営事業費</td> <td style="text-align: right;">7,302,471</td> <td style="text-align: right;">7,273,804</td> <td style="text-align: right;">28,667</td> </tr> <tr> <td> 管理部門経費</td> <td style="text-align: right;">1,481,469</td> <td style="text-align: right;">1,235,572</td> <td style="text-align: right;">245,897</td> </tr> <tr> <td> うち人件費（注2）</td> <td style="text-align: right;">332,203</td> <td style="text-align: right;">419,766</td> <td style="text-align: right;">87,563</td> </tr> <tr> <td> うち一般管理費（注3）（注4）</td> <td style="text-align: right;">1,149,266</td> <td style="text-align: right;">815,806</td> <td style="text-align: right;">333,460</td> </tr> <tr> <td> 事業部門経費</td> <td style="text-align: right;">5,821,002</td> <td style="text-align: right;">6,038,232</td> <td style="text-align: right;">217,230</td> </tr> <tr> <td> うち人件費（注2）（注4）</td> <td style="text-align: right;">868,379</td> <td style="text-align: right;">760,829</td> <td style="text-align: right;">107,550</td> </tr> <tr> <td> うち展示事業費（注3）</td> <td style="text-align: right;">1,857,088</td> <td style="text-align: right;">2,182,840</td> <td style="text-align: right;">325,752</td> </tr> <tr> <td> うち調査研究事業費（注4）</td> <td style="text-align: right;">210,132</td> <td style="text-align: right;">200,973</td> <td style="text-align: right;">9,159</td> </tr> <tr> <td> うち教育普及事業費（注5）</td> <td style="text-align: right;">480,407</td> <td style="text-align: right;">489,566</td> <td style="text-align: right;">9,159</td> </tr> <tr> <td> うち国立新美術館 開館準備等事業費等</td> <td style="text-align: right;">2,404,996</td> <td style="text-align: right;">2,404,024</td> <td style="text-align: right;">972</td> </tr> <tr> <td>施設整備費</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">0</td> <td style="text-align: right;">0</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">計</td> <td style="text-align: right;">7,302,471</td> <td style="text-align: right;">7,273,804</td> <td style="text-align: right;">28,667</td> </tr> </tbody> </table>	区分	計画額	実績額	増減額	収入				運営費交付金	6,778,748	6,778,748	0	展示事業等収入（注1）	523,723	786,365	262,642	寄附金収入	0	29,489	29,489	施設整備費補助金	0	0	0	計	7,302,471	7,594,602	292,131	支出				運営事業費	7,302,471	7,273,804	28,667	管理部門経費	1,481,469	1,235,572	245,897	うち人件費（注2）	332,203	419,766	87,563	うち一般管理費（注3）（注4）	1,149,266	815,806	333,460	事業部門経費	5,821,002	6,038,232	217,230	うち人件費（注2）（注4）	868,379	760,829	107,550	うち展示事業費（注3）	1,857,088	2,182,840	325,752	うち調査研究事業費（注4）	210,132	200,973	9,159	うち教育普及事業費（注5）	480,407	489,566	9,159	うち国立新美術館 開館準備等事業費等	2,404,996	2,404,024	972	施設整備費	0	0	0	計	7,302,471	7,273,804	28,667	A	適切な財務計画及び処理がなされているものと認められる。
区分	計画額	実績額	増減額																																																																																						
収入																																																																																									
運営費交付金	6,778,748	6,778,748	0																																																																																						
展示事業等収入（注1）	523,723	786,365	262,642																																																																																						
寄附金収入	0	29,489	29,489																																																																																						
施設整備費補助金	0	0	0																																																																																						
計	7,302,471	7,594,602	292,131																																																																																						
支出																																																																																									
運営事業費	7,302,471	7,273,804	28,667																																																																																						
管理部門経費	1,481,469	1,235,572	245,897																																																																																						
うち人件費（注2）	332,203	419,766	87,563																																																																																						
うち一般管理費（注3）（注4）	1,149,266	815,806	333,460																																																																																						
事業部門経費	5,821,002	6,038,232	217,230																																																																																						
うち人件費（注2）（注4）	868,379	760,829	107,550																																																																																						
うち展示事業費（注3）	1,857,088	2,182,840	325,752																																																																																						
うち調査研究事業費（注4）	210,132	200,973	9,159																																																																																						
うち教育普及事業費（注5）	480,407	489,566	9,159																																																																																						
うち国立新美術館 開館準備等事業費等	2,404,996	2,404,024	972																																																																																						
施設整備費	0	0	0																																																																																						
計	7,302,471	7,273,804	28,667																																																																																						

収支差引	0	320,798	320,798
------	---	---------	---------

主な増減理由

- (注1) 入場料収入の増
- (注2) 予算計画時に事業部門に計上していた人件費のうち、国立新美術館開館準備にかかるものを、決算時に管理部門に計上したため。
- (注3) 予算計画時に一般管理費に計上していた光熱水料のうち、展示室等にかかる部分について決算時に展示事業費に計上したため。
- (注4) 業務の効率化による支出減
- (注5) 受託事業の経費を支出したことによる増

特記事項

運営費交付金を充当して行う業務では、人件費が予算に比べて19,987千円の支出減となった。これは退職者の不補充や人事異動、退職者の補充の際に若い職員を採用したことにより、人件費を抑制したことが主な要因である。物件費は、効率的な予算執行に努め、予算に比べ8,680千円の支出減となった。

展示事業等収入は、展示会の入館者数が目標入館者数を上回ったことが、入場料収入の増加につながった。その他事業収入では、国立新美術館がレストラン等の不動産賃貸料を売上に応じた割合で決定する方式を採用し、レストラン等の利用状況が好調だったことが、不動産賃貸収入の増加に繋がった。これらの理由により、展示事業等収入は予算に比べて262,642千円の収入増となった。寄附金については、21件、29,489千円を獲得した。そのうち16,255千円を当年度の収益とし、残りの13,234千円を次年度以降に繰り越して執行する予定である。

2 収支計画（単位：千円）

区分	計画額	実績額	増減額
費用の部			
経常経費	5,868,261	5,885,431	17,170
管理部門経費	1,331,477	1,158,678	172,799
うち人件費	332,203	419,627	87,424
うち一般管理費（注1）	999,274	739,051	260,223
事業部門経費	4,427,996	4,596,101	168,105
うち人件費	868,379	760,522	107,857
うち展示事業費（注2）	839,796	1,121,439	281,643
うち調査研究事業費（注2）	200,393	201,149	756
うち教育普及事業費（注2）	467,485	485,997	18,512
うち国立新美術館 開館準備等事業費等（注1）	2,051,943	2,026,994	24,949
減価償却費	108,788	130,652	21,864
収益の部	5,868,261	6,163,879	295,618
運営費交付金（注1）	5,235,750	5,231,110	4,640
展示事業等の収入（注3）	523,723	802,620	278,897
資産見返運営費交付金戻入	22,722	109,153	86,431
資産見返寄附金戻入	57	91	34

資産見返物品受贈額戻入	86,009	20,905	65,104
経常利益		278,448	
臨時損失		1,303	
臨時利益		754	
当期純利益		277,899	
当期総利益		277,899	

主な増減理由

(注1) 固定資産の取得が見込より多く、費用への計上が少なかったため。

(注2) 固定資産の取得が見込より少なく、費用への計上が多かったため。

(注3) 入場料収入の増

3 資金計画 (単位: 千円)

区分	計画額	実績額	増減額
資金支出	7,302,471	9,243,885	1,941,414
業務種加による支出 (注1)	6,776,763	8,814,138	2,037,375
投資種加による支出 (注2)	525,708	429,747	95,961
資金収入	7,302,471	7,556,892	254,421
業務種加による収入	7,302,471	7,556,892	254,421
運営費交付金による収入	6,778,748	6,778,748	0
展示事業等による収入 (注3)	523,723	778,144	254,421
投資種加による収入	0	0	0
施設整備補助金による収入	0	0	0
資金増加額		1,686,993	
資金期首残高		3,096,284	
資金期末残高		1,409,291	

主な増減理由

(注1) 積立金を国庫納付したことによる。

(注2) 固定資産の取得が見込より少なかったことによる。

(注3) 入場料収入の増

4 貸借対照表 (単位: 千円)

資産の部		負債及び資本の部	
資産の部		負債の部	
流動資産	1,487,076	流動負債	1,201,567
固定資産		固定負債	1,265,004
1.有形固定資産	121,277,623		
2.無形固定資産	48,241	負債合計	2,466,571

		<table border="1"> <tr> <td>固定資産合計</td> <td>121,325,864</td> <td>資本の部</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td> 資本金</td> <td>81,019,149</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td> 資本剰余金</td> <td>38,667,789</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td> 利益剰余金</td> <td>659,431</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>資本合計</td> <td>120,346,369</td> </tr> <tr> <td>資産合計</td> <td>122,812,940</td> <td>負債・資本合計</td> <td>122,812,940</td> </tr> </table>	固定資産合計	121,325,864	資本の部				資本金	81,019,149			資本剰余金	38,667,789			利益剰余金	659,431			資本合計	120,346,369	資産合計	122,812,940	負債・資本合計	122,812,940		
固定資産合計	121,325,864	資本の部																										
		資本金	81,019,149																									
		資本剰余金	38,667,789																									
		利益剰余金	659,431																									
		資本合計	120,346,369																									
資産合計	122,812,940	負債・資本合計	122,812,940																									
<p>短期借入金の限度額 短期借入金の限度額は、1.2億円。 短期借入金が想定される理由は、運営費交付金の受入れに遅延が生じた場合である。</p>	5	<p>短期借入金 実績なし</p>	A																									
<p>重要な財産の処分等に関する計画 重要な財産を譲渡、処分する計画はない。</p>	6	<p>重要な財産の処分等 実績なし</p>	A																									
<p>剰余金の使途 決算において剰余金が発生した時は、次の購入等に充てる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 美術作品の購入・修理 2 調査研究、出版事業の充実 3 企画展等の追加実施 4 入館者サービス、情報提供の質的向上、老朽化対応のための整備の充実 	7	<p>剰余金 (1) 当期末処分利益の処分計画</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>金額(円)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>当期末処分利益</td> <td>277,898,619</td> </tr> <tr> <td>当期総利益</td> <td>277,898,619</td> </tr> <tr> <td>処分計画</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 積立金(通則法第44条第1項)</td> <td>23,442,055</td> </tr> <tr> <td> 目的積立金(通則法第44条第3項)</td> <td>254,456,564</td> </tr> <tr> <td>(使途の内訳)</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 1 美術作品の購入・修理</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 2 調査研究・出版事業の充実</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 3 企画展等の追加実施</td> <td></td> </tr> <tr> <td> 4 入館者サービス、情報提供の質的向上、老朽化対応のための設備の充実</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) 利益の生じた主な理由 予算額を上回った自己収入があったことによる。</p>	区分	金額(円)	当期末処分利益	277,898,619	当期総利益	277,898,619	処分計画		積立金(通則法第44条第1項)	23,442,055	目的積立金(通則法第44条第3項)	254,456,564	(使途の内訳)		1 美術作品の購入・修理		2 調査研究・出版事業の充実		3 企画展等の追加実施		4 入館者サービス、情報提供の質的向上、老朽化対応のための設備の充実		A			
区分	金額(円)																											
当期末処分利益	277,898,619																											
当期総利益	277,898,619																											
処分計画																												
積立金(通則法第44条第1項)	23,442,055																											
目的積立金(通則法第44条第3項)	254,456,564																											
(使途の内訳)																												
1 美術作品の購入・修理																												
2 調査研究・出版事業の充実																												
3 企画展等の追加実施																												
4 入館者サービス、情報提供の質的向上、老朽化対応のための設備の充実																												

(3) 目的積立金の使用状況(単位:円)

使途の内訳	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
4 入館者サービス、 情報提供の質的向上、 老朽化対応のための設 備の充実	677	0	677	0

減少の理由
国庫納付のため、通則法第44条第1項積立金に振り替えたことによる。

(4) 積立金(通則法第44条第1項)の状況(単位:円)

使途の内訳	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
積立金	1,437,482,430	442,879,265	1,880,361,695	0
前中期目標期間 繰越積立金	0	381,532,745	0	381,532,745

減少の理由 国庫納付及び前中期目標期間繰越積立金に振り替えたことによる。

その他主務省令で定める業務運営
に関する事項

1 人事に関する計画

(1) 方針

国家公務員制度改革や類似独立
行政法人等の人事・給与制度改革の
動向を勘案しつつ、職員的能力や業
績を適切に反映できる人事・給与制
度を検討し、導入する。

人事交流を促進するとともに、職員
の資質向上を図るための研修機会を
提供に努める。また、効果的かつ効
率的な業務運営を行うため、非公務
員化のメリットを活かした制度を
活用する。

(2) 人員に係る指標

常勤職員については、その職員数
の増減を図る。

(参考1)

人事の状況
【定性的に評価】

8 人事に関する計画

職種別人員の増減状況(過去5年分)(単位:人)

職種	14年度	15年度	16年度	17年度	18年度
定年制研究系職員	53	58	60	60	61
定年制事務系職員	63	64	68	70	70

公務員の給与改定に関する取扱いについて(平成18年10月17日閣議決定)に基づき、公務員の
例に準じて措置、対応している。

人事交流の推進

事務系職員については、文化庁、国立大学法人及び他の独立行政法人との間で定期的な人事交
流を行い、組織の効率化と個々の職員能力の発揮とその向上を考慮して人事配置を行った。

職員の研修等

ア 東京国立近代美術館

- ・ 人事院主催「平成18年度関東地区新採用職員研修」(3名)
- ・ 人事院主催「第5回関東地区窓口クレーム対応研修」(1名)
- ・ 人事院主催「第32回関東地区課長補佐研修」(1名)
- ・ 人事院主催「第37回関東地区係長研修」(1名)
- ・ 財務省会計センター主催「第44回政府関係法人会計事務職員研修」(1名)
- ・ 国家公務員共済組合連合会主催「平成18年度長期総合実務研修」(1名)

A

少ない人員のなかで、最大限の努力を行
ったことが認められる。人件費は平成17
年度とほぼ同額であるが、国立新美術館の
開館に伴い、業務が増加している事情を勘
案することが必要である。

1) 期初の常勤職員数 131人
 2) 期末の常勤職員数の見込み 131人
 (参考2) 中期目標期間中の人件費総額見込額 5,220百万円
 但し、上記の総額は、役職員に対し支給する報酬(給与)賞与、その他の手当の合計額であり、退職金、福利厚生費を含まない。

- ・国立国会図書館主催「第2回レファレンス協同データベースシステム研修」(1名)
- ・文化庁主催「平成18年度図書館等職員著作権実務講習会」(2名)
- ・東京大学主催「平成18年度係長級研修」(1名)
- ・東京大学主催「平成18年度係員研修」(1名)
- ・財団法人日本博物館協会主催「平成18年度誰にもやさしい博物館づくり事業バリアフリー研修会」(2名)
- ・文部科学省在外研究員として海外へ派遣(1名)
- ・事務系職員に対して財務研修会の企画・実施、東京国立博物館主催の税金講演会に職員を派遣
- ・平成18年7月から8月中の計4日間、東京消防庁本所防災館において防災体験(計61名参加)
- ・本館・工芸館において消防訓練を実施(平成19年1月24日実施、49名参加)
- ・放送大学受講(7名)
- イ 京都国立近代美術館
 - ・人事院主催「近畿地区中堅係員研修」(1名)
 - ・人事院主催「人事院報告に関する説明会」(1名)
 - ・人事院主催「近畿地区上級係員研修」(1名)
 - ・人事院主催「災害補償実務担当者研修会」(1名)
 - ・人事院主催「広域異動手当等改正給与説明会」(1名)
 - ・京都府地方事務局主催「京都府地方事務局管内行政庁公務事務担当者会議」(1名)
 - ・財団法人日本博物館協会主催「博物館指導者研究協議会」(1名)
 - ・新任職員オリエンテーション(3名)
 - ・国立美術館館務研修会(5名)
- ウ 国立西洋美術館
 - ・人事院主催「プレゼンテーション研修」(1名)
 - ・文部科学省主催「科学研究費補助金制度についての説明会」(1名)
 - ・文部科学省主催「科学研究費補助金に係る不正使用等防止に関する説明会」(1名)
 - ・独立行政法人国立公文書館主催「平成18年度公文書館等職員研修会」(1名)
 - ・台東区主催「平成18年度事業所ごみ減量体験講座」(1名)
 - ・上野消防署主催「防火管講習」(1名)
 - ・英会話研修(1名)
 - ・タイムマネジメント研修「効率的な時間活用の仕事術」(11名)
 - ・給与計算ソフトウェア講習会(1名)
 - ・平成18年度国立美術館新任職員オリエンテーション(7名)
 - ・財務研修会(3名)
 - ・社会保険事務講習会(1名)
 - ・年末調整事務関連説明会(1名)
 - ・消防 防災訓練(業者及びボランティア等を含む。平成19年3月19日)
- エ 国立国際美術館
 - ・人事院主催「接遇のあり方に関する実務研修」
 - ・文部科学省、国立教育政策研究所主催「平成18年度博物館職員講習」
 - ・大阪労働局主催「請負・委託発注元公共団体セミナー」
- オ 国立新美術館
 - ・人事院主催「平成18年度関東地区新採用職員研修」(1名)
 - ・人事院主催「第83回関東地区中堅研修」(1名)

- ・文化財研究所主催「平成18年度保存担当学芸員研修」(1名)
- ・総務省関東管区行政評価局主催「情報公開・個人情報保護法制度の運営に関する説明会」(1名)
- ・消防訓練の実施 2回 平成18年11月9日：部分訓練(麻布消防署の協力),平成19年3月13日：総合訓練(麻布消防署との合同訓練)
- ・社団法人東京労働基準協会連合主催「衛生推進者養成講習会」(1名)
- ・労働保険等説明会(1名)平成19年3月9日
- ・全国美術館会議「第22回学芸員研修会」(1名)

2 別紙のとおり施設整備に関する計画に沿った整備を推進する。

施設整備の状況【定性的に評価】

9 施設整備に関する計画
 東京国立近代美術館本館熱源機器設備更新工事, 京都国立近代美術館美術品収蔵ラック増設工事, 国立西洋美術館新館空調設備改修その他工事及び国立新美術館土地購入について, 平成19年度予算に施設整備費補助金が計上された。平成19年度から工事及び購入を行う予定である。

A

適切に実施されたものと認められる。

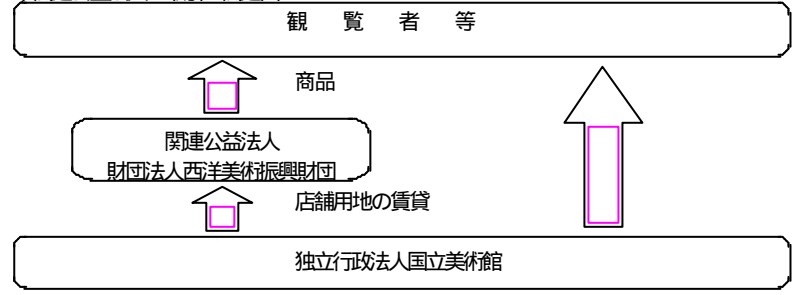
10 関連公益法人
 (1) 関連公益法人の概要

名称	業務の概要	独立行政法人との関係
財団法人西洋美術振興財団	西洋美術に関する展覧会・講演会等の開催及びその支援	西洋美術館内において、当法人から店舗用地を賃借している

A

適切に実施されたものと認められる。

(2) 関連公益法人の取引の関連図



(3) 関連公益法人の財務状況(単位:千円)

決算月	資産	負債	正味財産	当期収入 合計額	当期支出 合計額	当期収支 差額
19年3月	192,819	9,521	183,298	39,826	51,290	11,464

(4) 独立行政法人国立美術館が拠出等をしている関連公益法人の基本財産等の状況

出えん、拠出、寄附金等の金額	会費、負担金等の金額
-	-

(5) 関連公益法人との取引の状況(単位:千円)

関連公益法人に対する債権債務の金額	関連公益法人に対し行っている債務保証の金額	関連公益法人の事業収入の金額	うち、独立行政法人国立美術館の発注等に係わる金額及びその割合
-	-	34,826	-

内部統制(監査規定、体制、監査実績、監査内容)についての評価委員会のコメント

監事監査については、監査要綱、実施基準、要領を定め、確実に実施されている。内部監査についても、監査要綱を定め、監査事項に沿った監査が確実に実施されている。